PC98-NX SERIES

LaVie NX

LB30C

(Windows 98 インストール)

活用ガイド ハードウェア編

本機の機能

周辺機器を使う

システムの設定

主な内容

このパソコンには、次のマニュアルが用意されています。

●「入門ガイド」(LaVieの一太郎モデルとWordモデルのみ)

Windowsやワープロの基本操作を解説した、入門者向けのマニュアルです。

・NXパッドの基本操作
・ウィンドウの基本操作
・ワープロ入門(一太郎/Word)
・ファイルの使い方
・いろいろなソフトウェアの紹介

●「インターネットガイド」(LaVieのみ)

インターネットに接続する方法、パソコンをFAXの代わりに使う方法などを説明しています。

・インターネットとは
・インターネットを体験する
・ホームページを見る
・電子メールを使う
・外出先での通信
・FAXを使う

●「活用ガイド ハードウェア編」

このパソコンの取り扱い方法などを説明しています。

・キーボード、ハードディスク、CD-ROMドライブなどの取り扱い
・周辺機器の接続と利用方法
・システム設定について

●「活用ガイド ソフトウェア編」

アプリケーションの利用方法や再セットアップの方法について説明しています。

VersaProでは、本書にさまざまなトラブルへの対応方法をQ&A形式で説明しています。

・アプリケーションの利用方法
・再セットアップの方法
・Windows NT4.0を利用する場合の設定

●「困ったときのQ&A」(LaVieのみ)

さまざまなトラブルへの対処方法をQ&A形式で説明したマニュアルです。

・トラブル解決Q&A

このマニュアルは、パソコンの取り扱い方法について説明するものです。

　周辺機器やオプションを接続してパソコンを拡張する場合、パソコンの設定を変更する場合などに、このマニュアルをご利用ください。

1999年 5月　初版

対象機種　　(Windows 98インストールモデル)

LaVie NX　:LB30C

808-875488-324-A

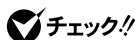
このマニュアルの表記について

◆このマニュアルでは、パソコンを安全にお使いいただくための注意事項を次のように記載しています。

⚠警告　注意事項を守っていただけない場合、人が死亡または重傷を負う可能性が想定されることを示します。

⚠注意　注意事項を守っていただけない場合、人が傷害を負う可能性が想定されること、または物的損害のみの発生が想定されることを示します。

注意事項を守っていただけない場合、発生が想定される障害または事故の内容を表しています。左のマークは感電の可能性が想定されることを示しています。このほかに、毒物注意、破裂注意、高温注意についても、それぞれ記載しています。

◆このマニュアルで使用している記号や表記には、次のような意味があります。

してはいけないことや、注意していただきたいことを説明しています。よく読んで注意を守ってください。場合によっては、作ったデータの消失、使用しているアプリケーションの破壊、パソコンの破損の可能性があります。

パソコンを使うときに知っておいていただきたい用語の意味を解説しています。

利用の参考となる補足的な情報をまとめています。

マニュアルの中で関連する情報が書かれている所を示しています。

◆このマニュアルで使用している表記の意味

一太郎モデル　一太郎9、三四郎9、花子9、Sasukeがあらかじめインストールされているモデルのことです。

Wordモデル　Excel 97、Word 98、Outlook 98があらかじめインストールされているモデルのことです。

【　】　【　】で囲んである文字は、キーボードのキーを指します。

「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」

「スタート」ボタンをクリックし、現れたポップアップメニューから「設定」を選択し、横に現れるサブメニューから「コントロールパネル」を選択する操作を指します。

◆このマニュアルで使用しているアプリケーション名などの正式名称

本文中の表記	正式名称
Windows、Windows 98	Microsoft® Windows® 98 operating system 日本語版
Windows NT 4.0	Microsoft® Windows NT® Workstation Operating System Version 4.0
一太郎9パック	一太郎9・花子9パック（一太郎9、三四郎9、花子9、ATOK12）
Excel 97、Word 98、Outlook 98	Microsoft® Excel 97 & Word 98 & Outlook™ 98 for Windows®

◆このマニュアルで使用しているイラストと画面

・本書に記載の画面は、モデルによって異なることがあります。

・本書に記載の画面は、実際の画面とは多少異なることがあります。

◆ご注意

このマニュアルのPART1とPART2は、本機をAPMモードで使用していることを前提に記載されています。ACPIモードをご利用の方は、PART4の「ACPIモードについて」をご覧ください。

当社は国際エネルギースタープログラムの参加事業者として、本製品が国際エネルギースタープログラムの基準に適合していると判断します。

> 国際エネルギースタープログラムは、コンピュータをはじめとしたオフィス機器の省エネルギー化推進のための国際的なプログラムです。このプログラムは、エネルギー消費を効率的に抑えた製品の開発、普及の促進を目的としたもので、事業者の自主判断により参加することができる任意制度となっています。対象となる製品は、コンピュータ、ディスプレイ、プリンタ、ファクシミリおよび複写機等のオフィス機器で、それぞれの基準ならびにマーク(ロゴ)は参加各国の間で統一されています。

■技術基準等適合認定について

このパーソナルコンピュータに添付のFAXモデムカードは、電気通信事業法第50条第1項の規定に基づく技術基準等適合認定を受けています。申請回線と認定番号は次のとおりです。なお、専用回線との接続は、一般のお客様には行えませんので、必ずご購入元にご相談ください。

対象機種	電話回線
PK-UG-J006	S98-2804-0

■電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会(VCCI)の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

■漏洩電流自主規制について

この装置は、社団法人日本電子工業振興協会のパソコン業界基準(PC-11-1988)に適合しております。

■瞬時電圧低下について

[バッテリパックを取り付けていない場合]

本装置は、落雷等による電源の瞬時電圧低下に対し不都合が生じることがあります。
電源の瞬時電圧低下対策としては、交流無停電電源装置等を使用されることをおすすめします。

[バッテリパックを取り付けている場合]

本装置にバッテリパック実装時は、社団法人日本電子工業振興協会の定めたパーソナルコンピュータの瞬時電圧低下対策ガイドラインを満足しますが、ガイドラインの基準を上回る瞬時電圧低下に対しては、不都合が生じることがあります。

■レーザ安全基準について

この装置には、レーザに関する安全基準(JIS・C-6802、IEC825)クラス1適合のCD-ROMドライブが添付されています。

ご注意

(1) 本書の内容の一部または全部を無断転載することは禁じられています。
(2) 本書の内容に関しては将来予告なしに変更することがあります。
(3) 本書の内容については万全を期して作成いたしましたが、万一ご不審な点や誤り、記載もれなどお気づきのことがありましたら、ご購入元、最寄りのBit-INN、またはNECパソコンインフォメーションセンターへご連絡ください。落丁、乱丁本は、お取り替えいたします。ご購入元までご連絡ください。
(4) 当社では、本装置の運用を理由とする損失、逸失利益等の請求につきましては、(3)項にかかわらずいかなる責任も負いかねますので、予めご了承ください。
(5) 本装置は、医療機器、原子力設備や機器、航空宇宙機器、輸送設備や機器など、人命に関わる設備や機器、および高度な信頼性を必要とする設備や機器などへの組み込みや制御等の使用は意図されておりません。これら設備や機器、制御システムなどに本装置を使用され、人身事故、財産損害などが生じても、当社はいかなる責任も負いかねます。
(6) 海外NECでは、本製品の保守・修理対応をしておりませんので、ご承知ください。
(7) 本機の内蔵ハードディスクにインストールされているMicrosoft® Windows® 98は、本機でのみご使用ください。また、本機に添付のCD-ROMやフロッピーディスクは、本機のみでしかご利用になれません(Intellisync、モバイルメールを除く。詳細は「ソフトウェアのご使用条件」および「ソフトウェアの使用条件適用一覧」をお読みください)。
(8) ソフトウェアの全部または一部を著作権の許可なく複製したり、複製物を頒布したりすると、著作権の侵害となります。
(9) ハードウェアの保守情報をセーブしています。

Microsoft、MS、MS-DOS、Windows、Windows NT、Active Movie、NetMeeting、Outlook、およびWindowsのロゴは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における商標または登録商標です。
商標「三四郎」は、株式会社エス・エス・ビーの登録商標であり、株式会社ジャストシステムは商標使用許諾を受けています。
「一太郎」「花子」「ATOK」は、株式会社ジャストシステムの登録商標です。
「一太郎9・花子9パック」「Shuriken」「Sasuke」は、株式会社ジャストシステムの商標です。
「一太郎9・花子9パック」は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、「一太郎9・花子9パック」にかかる著作権その他の権利は株式会社ジャストシステムおよび各権利者に帰属します。
Puma Technology、Puma Technologyロゴ、DSX Technology、DSX Technologyロゴ、IntellisyncおよびIntellisyncロゴは、いくつかの法域で登録することができるPuma Technology,Inc.の商標です。
MMX、PentiumはIntel Corporationの登録商標です。
Cyber9388はTrident社の商標です。
Hayesは、米国Hayes Microcomputer Productsの登録商標です。
MNPは、Microcom, Inc.の登録商標です。
PS/2はIBM社が所有している商標です。

その他、本マニュアルに記載されている会社名、商品名は各社の商標または登録商標です。

■輸出する際の注意事項
本製品(ソフトウェアを含む)は日本国内仕様であり、外国の規格等には準拠しておりません。本製品は日本国外で使用された場合、当社は一切責任を負いかねます。また、当社は本製品に関し海外での保守サービスおよび技術サポート等は行っておりません。

目　次

PART

PART 3

PART 4

PART

1

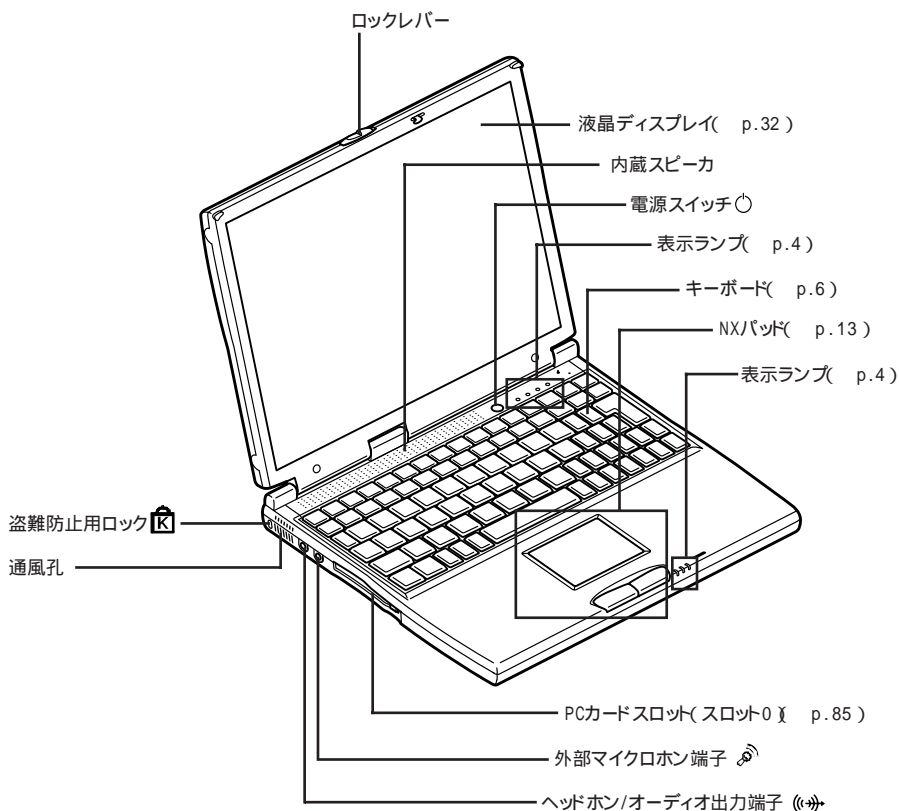
本機の機能

本機の各部の名称といろいろな機能について説明しています。

このPARTの内容

各部の名称

本機の各部の名称と配置について説明しています。それぞれの機能や取り扱い方については、参照ページをご覧ください。

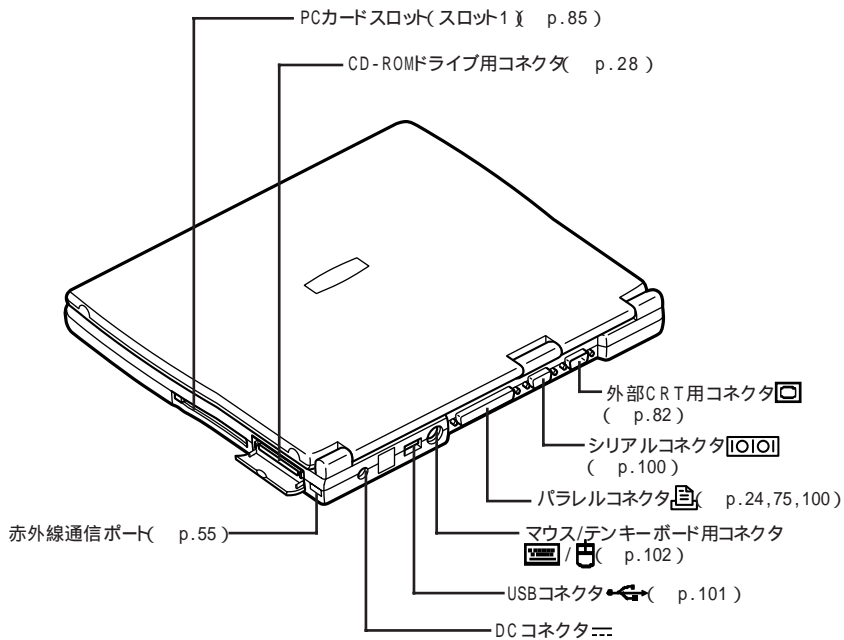
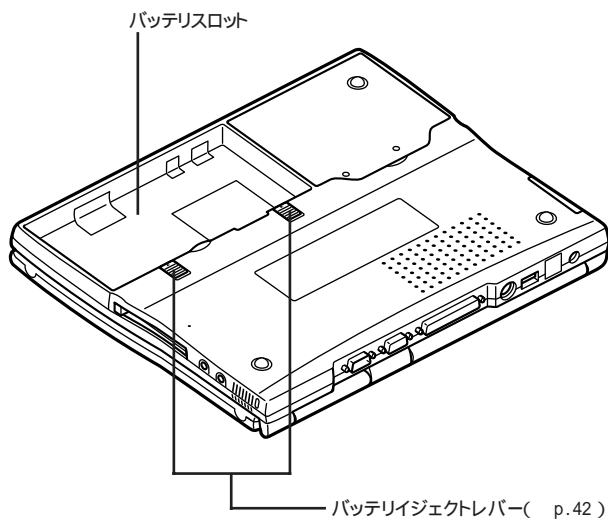
◆前面

盗難防止用ロック

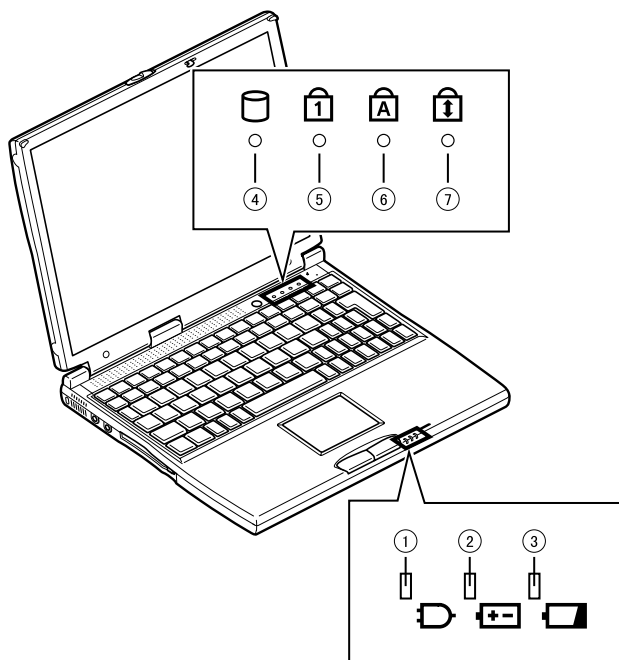
本機の盗難防止用ロックは、Kensington 社製のマイクロセーバーセキュリティシステムに対応しています。
日本国内総販売代理店の連絡先は、次のとおりです(1999年5月現在)。
日本ポラロイド株式会社　電子映像事業部
〒105-8456　東京都港区虎ノ門3丁目2番2号　第30森ビル
Tel:03-3438-8879　Fax:03-5473-8614

◆背面

PCカードスロット(スロット1)(→p.85)
CD-ROMドライブ用コネクタ(→p.28)
外部CRT用コネクタ
(→p.82)
シリアルコネクタ
(→p.100)
パラレルコネクタ(→p.24,75,100)
マウス/テンキーボード用コネクタ
/ (→p.102)
USBコネクタ (→p.101)
DCコネクタ
赤外線通信ポート(→p.55)

◆底面

バッテリスロット
バッテリイジェクトレバー(→p.42)

表示ランプ

本機の表示ランプの名称と機能について説明しています。

① 電源ランプ(AC電源駆動時)

- **緑色点灯** ...... 電源が入っている
- **緑色点滅** ...... スタンバイ状態
- **消灯**........... 電源が切れているか休止状態、またはバッテリで駆動中

② 電源ランプ(バッテリ駆動時)

- **緑色点灯** ...... 電源が入っている
- **緑色点滅** ...... スタンバイ状態
- **消灯**........... 電源が切れているか休止状態、またはAC電源で駆動中

③ バッテリ充電ランプ

- **オレンジ色点灯 .** バッテリ充電中
- **緑色点灯 ......** AC電源駆動時、充電完了
- **オレンジ色点滅 .** バッテリの充電が必要
- **消灯...........** ACアダプタが接続されていない状態で電源が切れているか、バッテリ駆動時

④ ハードディスクアクセスランプ

・**緑色点灯 ......** アクセス中
・**消灯...........** アクセスしていない

⑤ ニューメリックロックキーランプ

・**緑色点灯 ......**【Num Lk】がロックされている
キーを押すとキーボード上に青で表示されている文字が入力されます。
・**消灯...........**【Num Lk】がロックされていない
キーを押すとキーボード上に白で表示されている文字が入力されます。

⑥ キャップスロックキーランプ

・**緑色点灯 ......**【Caps Lock】がロックされている
英字を入力すると大文字になります。
・**消灯...........**【Caps Lock】がロックされていない
英字を入力すると小文字になります。

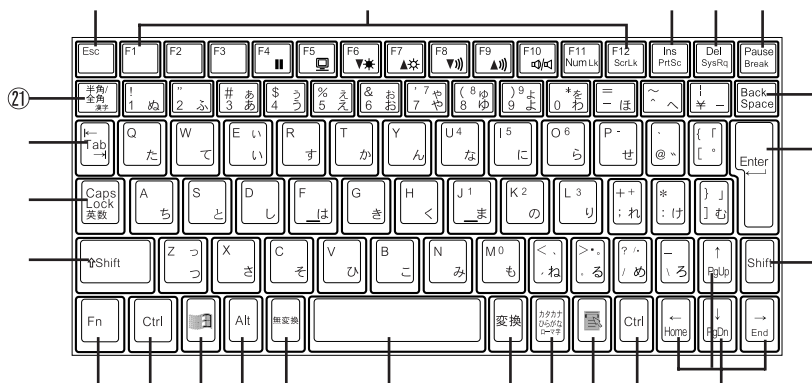
⑦ スクロールロックキーランプ

・**緑色点灯 ......**【Scr Lk】がロックされている
・**消灯...........**【Scr Lk】がロックされていない

キーボード

キーボードの基本的な使い方を説明します。

キーの使い方

◎ キーの名称

① 【Esc】: エスケープキー

② 【F1】〜【F12】: ファンクションキー

③ 【Ins】: インサートキー

④ 【Del】: デリートキー

⑤ 【Pause】: ポーズキー

⑥ 【Back Space】: バックスペースキー

⑦ 【Enter】: エンターキー(リターンキー)

⑧ 【Shift】: シフトキー

⑨ 【↑】【↓】【→】【←】: カーソル移動キー

⑩ 【Ctrl】: コントロールキー

⑪ 【 】: アプリケーションキー
Windows使用時に使うことができます。

⑫ 【カタカナ ひらがな】: かなキー

⑬ 【変換】: 変換キー

⑭ スペースキー

⑮ 【無変換】: 無変換キー

⑯ 【Alt】: オルトキー

⑰ 【 】: Windowsキー
Windows使用時に使うことができます。

⑱ 【Fn】: エフエヌキー

⑲ 【Caps Lock】: キャップスロックキー

⑳ 【Tab】: タブキー

㉑ 【半角/全角】: 半角/全角キー

◎ 特殊なキーの使い方

キー操作	説　明
【Shift】+【Caps Lock】	一度押すとキャップスロックキーランプが点灯し、ローマ字を入力すると大文字が入力されます。 もう一度押すとキャップスロックキーランプが消灯し、ローマ字を入力すると小文字が入力されます。
【Alt】+【半角／全角】	一度押すと日本語入力システムがオンになり、日本語が入力できるようになります。 もう一度押すと日本語システムがオフになり、日本語が入力できなくなります。
【Alt】+【カタカナ ひらがな】 (MS-IME98使用時のみ)	日本語入力システムがオンになっているとき、一度押すとかな入力モードになり、キー上面のかな文字で日本語を入力できるようになります。もう一度押すとローマ字入力モードになり、キー上面のローマ字の組み合わせで日本語を入力できるようになります。
【Caps Lock】	日本語入力システムがオンになっているとき、一度押すと英数字が入力されるようになります。
【カタカナ ひらがな】	日本語入力システムがオンになっていて英数字が入力されるモードになっているとき、一度押すとひらがなやカタカナを入力できるようになります。
【Fn】	他のキーと組み合わせて機能を実行します(→p.8)。

◎ ホットキー機能(【Fn】の使い方)

【Fn】と他のキーを組み合わせることで、本機の設定をキー操作で簡単に調整することができます。これをホットキー機能といいます。
組み合わせが可能なキーとその機能は【Fn】と同じ色(青)でキー上面に印字されています。

機能	キー操作	説明
スリープ※	【Fn】+【F4】	スリープ状態にします(BIOSセットアップメニューでスタンバイ/休止状態を選択できます)(→p.110)。
ディスプレイ切り替え※	【Fn】+【F5】	別売のCRTディスプレイが接続されているとき、キーを押すごとに、「外部モニター」→「両方表示」→「内蔵液晶ディスプレイ」の順に切り替わります(→p.32,83)。
輝度を下げる ▼☀	【Fn】+【F6】	キーを押すごとに、液晶ディスプレイの輝度が低下します(8段階)(→p.32)。
輝度を上げる ▲☼	【Fn】+【F7】	キーを押すごとに、液晶ディスプレイの輝度が増加します(8段階)(→p.32)。
音量を下げる	【Fn】+【F8】	キーを押すごとに、スピーカの音量が下がります。
音量を上げる	【Fn】+【F9】	キーを押すごとに、スピーカの音量が上がります。
ミュート	【Fn】+【F10】	キーを押すと消音します。もう一度押すと、もとの音量に戻ります。
Num Lk	【Fn】+【F11】	キーを押すとニューメリックロックキーランプが点灯し、キーボード上に青で表示されている数字(0〜9)と記号(*-+/.)が入力できるようになります。もう一度押すとランプは消灯し、通常の文字が入力できるようになります。
スクロールロック	【Fn】+【F12】	【Scr Lk】の役割
プリントスクリーン	【Fn】+【Ins】	【Prt Sc】の役割
システムリクエスト	【Fn】+【Del】	【Sys Rq】の役割
Home	【Fn】+【←】	【Home】の役割
End	【Fn】+【→】	【End】の役割
PgUp	【Fn】+【↑】	【PgUp】の役割
PgDn	【Fn】+【↓】	【PgDn】の役割
右Alt	【Fn】+【Alt】	右【Alt】の役割
右Windows	【Fn】+【⊞】	右【⊞】の役割
Break	【Fn】+【Pause】	【Break】の役割

※ACPIモードではご使用になれません。

チェック!! **モードを切り替えるホットキー(【Fn】+【F4】~【F10】)での設定内容は、本機を再起動すると失われます。**

参照 **BIOSセットアップメニュー(→p.104)**

キーボードを設定する

1 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」で「コントロールパネル」を開き、「キーボード」アイコンをダブルクリックする

「キーボードのプロパティ」ウィンドウが表示されます。

「キーボードのプロパティ」ウィンドウでは、ウィンドウ左上の「速度」「言語」の各タブを選択すると、次のような設定を行うことができます。

・文字入力時の繰り返し入力のタイミング調節

・カーソルの点滅速度の調節

・日本語入力システムの選択

・レイアウトの設定

◎「速度」タブでの設定

表示までの待ち時間

一つのキーを押し続けたときに、入力の繰り返しが始まるまでの時間を調節します。

表示の間隔

一つのキーを押し続けたときに、文字の入力が繰り返される間隔を調節します。

カーソルの点滅速度

カーソルの点滅する間隔を調節します。

◎「言語」タブでの設定

言語

よく使う日本語入力システムを一覧から選び、「標準に設定」をクリックすると、その日本語入力システムが「標準の言語」欄に表示され、登録されます。

追加

「追加」ボタンをクリックして「言語の追加」ウィンドウを表示させ、追加したい言語を選びます。

プロパティ

日本語入力システムを一覧から選んで、「プロパティ」ボタンをクリックすると、環境設定のウィンドウが表示されます。「ローマ字／かな入力」、「入力モード／方式」、「句読点の種類」などを設定できます。

削除

削除したい言語を一覧から選んで、「削除」ボタンをクリックすると、その言語が一覧から削除されます。

言語の切り替え

言語の切り替えを行うキーの組み合わせを選択できます。

タスクバー上に状態を表示

「タスクバー上に状態を表示」をクリックして ☑（オン）にすると、日本語や日本語入力システムを簡単に切り替えることができるメニューがタスクバーに表示できます。

◎ 別売のキーボードを使うには

別売のテンキーボードを接続して使用することができます。
テンキーボードを接続するときは、本機背面のマウス／テンキーボード用コネクタに接続します。また、USB対応のキーボードの場合は、本機のUSBコネクタに接続することができます。

参照 **別売のテンキーボードの接続→「マウス／テンキーボード用コネクタ」（p.102）**

日本語入力の使い方

本機では、次の日本語入力システムが使用できます。

- **一太郎モデル** ：ATOK12とMS-IME98（既定値はATOK12）
- **その他のモデル** ：MS-IME98

入力方法や操作方法については、各日本語入力システムの「ヘルプ」をご覧ください。

◎ 日本語入力のオン、オフを切り替えるには

◆オンにするには

1 タスクバーの右にある をクリックする

2 表示されたメニューの「日本語入力-オン」をクリックする
これで日本語入力がオンになりました。

◆オフにするには

1 タスクバーの右にある をクリックする

2 表示されたメニューの「日本語入力-オフ」をクリックする
これで日本語入力がオフになりました。

◎ MS-IME98の「ヘルプ」を参照するには

1 MS-IME98のツールバーから「ヘルプ」ボタン をクリックする

2 メニューの「目次とキーワード」をクリックする

3 表示されたヘルプ画面で調べたい項目をダブルクリックする

4 「ヘルプ」を終了したいときは をクリックする

◎ ATOK12の「ヘルプ」を参照するには（一太郎モデルのみ）

1 ATOKパレットから「メニュー」ボタンをクリックする

2 メニューの中から「ヘルプ」メニュー→「ヘルプ」をクリックする

3 表示されたヘルプ画面で調べたい項目をダブルクリックする

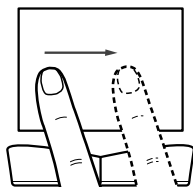
4 「ヘルプ」を終了したいときは☒をクリックする

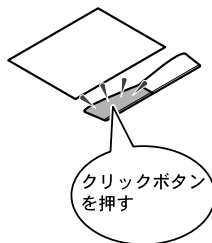
ポインティングデバイス

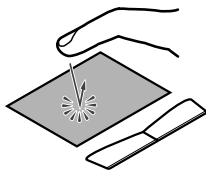
本機には、ポインティングデバイスとしてNXパッドが内蔵されています。コントロールパネルを使って、NXパッドをより使いやすいように設定できます。

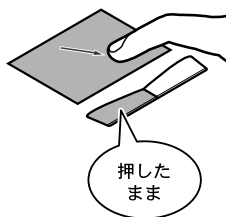
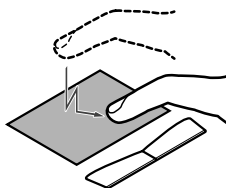
NXパッドの使い方

◎ ポインタ(カーソル)の移動

パッド上で指を動かすと、指の動きに合わせて画面上のポインタ(カーソル)が動きます。

◎ クリックとダブルクリック

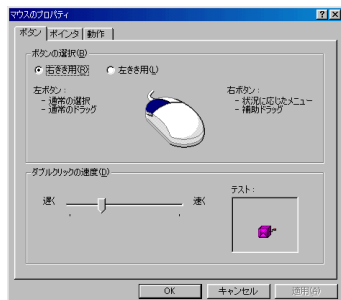
左または右のクリックボタンを押します。
1回押すことを「クリック」、すばやく2回続けて押すことを「ダブルクリック」と言います。

◎ タップ

クリックボタンを押す代わりに、指先でパッドを軽くたたいてクリックする方法をタップといいます。1回たたくことをタップ、2回連続してたたくことをダブルタップといいます。それぞれクリック、ダブルクリックするのと同じことです。

◎ ドラッグ

アイコンやフォルダの上にポインタを合わせ、左クリックボタンを押したまま指をパッド上で軽くすべらせると、ドラッグできます。

アイコンやフォルダの上にポインタを乗せた状態で、パッドに2回続けて触れ、2回目に触れたときにパッドから指を離さずにスライドさせてもドラッグできます。

ポインティングデバイスを設定する

Windowsでポインティングデバイスをより使いやすく設定することができます。

1 **「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」で「コントロールパネル」を開き、「マウス」アイコンをダブルクリックする**

「マウスのプロパティ」が表示されます。

「マウスのプロパティ」ウィンドウでは、ウィンドウの左上の各タブを選択すると、次のような設定を行うことができます。

・ボタンの設定
・ポインタデザインの選択
・ポインタの動作の調節

◎「ボタン」タブの設定

ボタンの選択

右きき用、左きき用、それぞれに合わせて左右のクリックボタンの設定ができます。

- **状況に応じたメニュー**：現在の本機の状況や、ポインタの位置で可能な操作の一覧が表示されているメニュー
- **補助ドラッグ**：ファイルやフォルダのコピー、ショートカットアイコンの作成などができるドラッグ

ダブルクリックの速度

ダブルクリックのクリック間隔の調節を行います。

◎「ポインタ」タブの設定

デザイン

ポインタのデザインを変更することができます。

◎「動作」タブの設定

ポインタの速度

ポインタの動作速度を調節します。

ポインタの軌跡

「表示する」を ☑（オン）にすると、ポインタの軌跡が表示されます。

内蔵ハードディスク

ハードディスクは高速で回転する円盤(ディスク)上に、Windows 98やアプリケーションなどのソフトウェアや、それらで作成したファイルを磁気的に記録して、読み出すための精密装置です。強い衝撃や過度の重量などが加わらないよう、取り扱いにご注意ください。
また、大切なデータを保護するために、定期的にデータのバックアップをとるようおすすめします。

チェック!! **本機に内蔵されているハードディスクは、非常に精密に作られています。特に、データの読み書き中(ハードディスクアクセスランプの点灯中)には、少しの衝撃が故障の原因となることがありますのでご注意ください。ハードディスクが故障すると、大切なデータが一瞬にして使えなくなってしまうことがあります。特に、ご自分で作成された大切なデータなどは、再セットアップしても元通りにはできません。**
大切なデータは、フロッピーディスクなど、ハードディスク以外の媒体にこまめにバックアップ(コピー)をとっておくことをおすすめします。

領域の確保とフォーマット

本機は、ご購入時の状態では、FAT32ファイルシステムで次のようにハードディスクが領域確保されています。

- Cドライブ:3Gバイト(FAT32ファイルシステム)
- Dドライブ:残りの領域(FAT32ファイルシステム)

上記のほかに、本機が休止状態(ハイバネーション)のときに使用する「Non-DOS領域」が確保されています。「Non-DOS領域」はFDISKコマンドの「4.領域情報を表示」で確認することができます。

チェック!! **「Non-DOS領域」は削除しないでください。削除してしまった場合は、このPARTの「省電力機能」の「休止状態(ハイバネーション)」を参照してください(→p.47)。**

ハードディスクの領域を削除した場合や、外付けのハードディスクを増設した場合などには、ハードディスクの領域の確保とフォーマットが必要です。次の手順にしたがって領域の確保とフォーマットを行ってください。

◎ 領域の確保

1 **「スタート」ボタン→「プログラム」で「MS-DOSプロンプト」をクリックする**

「C:¥WINDOWS＞」が表示されます。

2 **キーボードからFDISK /Xと入力し、【Enter】を押す**

ハードディスクの容量が8192Mバイト以上の場合は、FDISKと入力し【Enter】を押す

「大容量ディスクのサポートを可能にしますか(Y/N)」と表示されます。

ハードディスクの容量、領域の情報を確認したいときは、FDISK【Enter】と入力した後、「大容量ディスクのサポートを可能にしますか(Y/N)」と表示されたときに「Y」を選択してから【Enter】を押し、表示された「FDISKオプション」で「4. 領域情報を表示」を選択すると確認することができます。

3 **キーボードからNを入力し、【Enter】を押す**

FDISKオプション画面が表示されます。

Yを選択して領域の確保を行うと、FAT32で領域が作成されます。FAT32を利用するには、『活用ガイド ソフトウェア編』PART2の「FAT32ファイルシステムの利用」をご覧ください。

4 **キーボードから1を入力し、【Enter】を押す**

領域を作成する画面が表示されます。

5 **キーボードから2を入力し、【Enter】を押す**

「領域のサイズをMバイトか全体に対する割合(%)で入力してください. 拡張MS-DOS領域を作ります」と表示されます。

チェック!! **確保される領域は、入力した領域サイズより大きくなる場合があります。FAT16で領域確保するときに「2047Mバイト」の領域確保しようとすると、実際に領域確保されるサイズが「2052Mバイト」などの値になり、FAT16で領域確保できない場合があります。このような場合は、2045Mバイトなどの、2047Mバイトより小さい値を入力して領域確保を行ってください。**

6 キーボードの【Enter】を押す

「拡張MS-DOS領域を作成しました.」と表示されます。

7 キーボードの【Esc】を押す

「論理ドライブのサイズをMバイトか全体に対する割合(%)で入力してください.」と表示されます。

8 サイズを入力して【Enter】を押す

「論理MS-DOSドライブを作成しました.ドライブ名は変更または追加されました」と表示されます。

9 拡張MS-DOS領域がなくなるまで手順8を繰り返し、すべての拡張MS-DOS領域を論理ドライブに割り当てる

「拡張MS-DOS領域の使用可能な領域はすべて論理ドライブに割り当てられています」と表示されます。

10 キーボードの【Esc】を3回押す

「C:¥WINDOWS>」の表示に戻ります。

11 キーボードからEXITと入力し、【Enter】を押す

Windows 98の画面に戻ります。

12 「スタート」ボタン→「Windowsの終了」をクリックする

「Windowsの終了」画面が表示されます。

13 「再起動する」をクリックして「OK」ボタンをクリックする

本機が再起動します。

◎ フォーマット

領域を確保したら、続いてハードディスクをフォーマットします。

チェック!! すでに使用されているドライブをフォーマットすると、そのドライブに保存されていたすべてのデータが消えてしまいます。フォーマットをする際は、十分注意してください。

1 「マイコンピュータ」をダブルクリックする

2 新たに領域を確保したドライブをクリックする

3 メニューバーの「ファイル」→「フォーマット」をクリックする

フォーマットの画面が表示されます。

4 「通常のフォーマット」をクリックする

5 「スタート」ボタンをクリックする

確認の画面が表示されます。

6 「OK」ボタンをクリックする

フォーマットが始まります。しばらくすると、フォーマットが終了してフォーマットの結果の画面が表示されます。

7 「閉じる」ボタンをクリックする

スキャンディスクの実行を促す画面とヘルプが表示されます。

> スキャンディスクについては、次項の「ハードディスクのメンテナンス」をご覧ください。

8 「OK」ボタンをクリックする

9 「フォーマット」の画面をクリックする

10 「閉じる」ボタンをクリックする

11 ヘルプの内容に従って、スキャンディスクを実行する

複数の領域を確保したいときは、手順2から手順11までの操作を繰り返してください。

ハードディスクのメンテナンス

Windows 98には、ハードディスクの障害を検出したり、アクセス速度を保つためのメンテナンスソフトが組み込まれています。
メンテナンスソフトには、ディスククリーンアップやメンテナンスウィザードなどがあります。詳しくは、Windows 98のヘルプをご覧ください。

◎ スキャンディスク

ハードディスク表面やハードディスクに保存されているデータに、障害がないかどうかを調べるためのWindowsのツールです。もし障害があった場合は、可能な範囲で修復することができます。次の手順で操作します。

1 「スタート」ボタン→「プログラム」→「アクセサリ」→「システムツール」で「スキャンディスク」をクリックする

「スキャンディスク」ウィンドウが表示されます。

2 「エラーチェックをするドライブ」の一覧から、チェックするドライブをクリックする

ここではハードディスクドライブを選びます。

3 「開始」ボタンをクリックする

チェックが始まります。

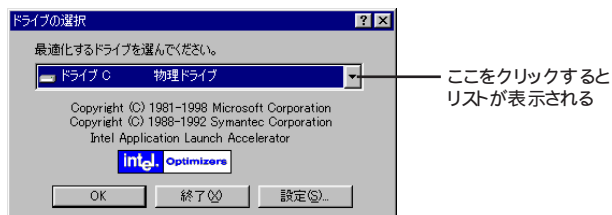
チェックには数分から数十分かかることがあります。チェックが終了すると、「結果レポート」が表示されます。

◎ デフラグ

ハードディスクは長い間使っていると断片化がおこります。断片化とは、データがハードディスクにばらばらに保存されることで、データの読み書きのスピードの低下につながります。デフラグを実行すると、ばらばらに記録されたデータが最適化されます。
デフラグを実行するには、次の手順で操作します。

「フラグメンテーション（断片化）を解消する」の意味の省略語。

1 **「スタート」ボタン→「プログラム」→「アクセサリ」→「システムツール」で「デフラグ」をクリックする**

2 **表示された「ドライブ選択」ウィンドウのリストからデフラグするハードディスクを選ぶ**

3 **「OK」ボタンをクリックする**

ディスクの最適化が始まります。「ディスクの最適化」が終了したら、画面の指示に従い、デフラグを終了します。

チェック!! **デフラグの実行中は、絶対に電源を切ったり、再起動したり、スタンバイ状態や休止状態にしたりしないでください。**

フロッピーディスクドライブ

本機には外付けの3.5インチフロッピーディスクドライブが用意されています。

使用できるフロッピーディスク

本機では次の形式のフロッピーディスクを使うことができます。

作業内容 / フォーマット	データの読み書き	フォーマット	ディスクコピー
640Kバイト	—	—	—
720Kバイト	○	○	○
1.44Mバイト	○	○	○
1.2Mバイト	○	—※	—※

※:Windows NT使用時は使用可能

チェック!!

- **1.2Mバイトのフロッピーディスクは、Windows 98の「ディスクのコピー」でバックアップが取れません。また、「ディスクのコピー」のコピー先のフロッピーディスクは、コピー元のフロッピーディスクと同じ容量でフォーマットされたフロッピーディスクを使用してください(これはMS-DOSプロンプトのDISKCOPYコマンドでも同様です)。**
- **フォーマットしていないフロッピーディスクをマイコンピュータなどで選択すると、フロッピーディスクドライブのアクセスランプが点灯し続けたり、フォーマットしようとするとフォーマット開始までの時間が長くかかったりする場合があります。これは、フロッピーディスクの種別を判別するのに時間がかかっているためで、しばらくお待ちいただければ、処理が開始されます。**
- **MS-DOS Ver6.2以前のFORMATコマンドでフォーマットしたフロッピーディスクをMS-DOSプロンプトからDISKCOPYコマンドでディスクコピーすることはできません。「マイコンピュータ」の「フロッピーディスクドライブ」アイコンを右クリックし、「メニュー」から「ディスクのコピー」を実行してください。**
- **2DDのフロッピーディスクを720KBでフォーマットした場合、いったんフロッピーディスクを取り出し、もう一度入れ直してから使用してください。フォーマット後に、フロッピーディスクを入れ直さずにファイルを書き込もうとすると、フォーマットが正常に終了していても、エラーが発生する場合があります。
クイックフォーマットされたフロッピーディスクの場合は、この手順は必要ありません。**

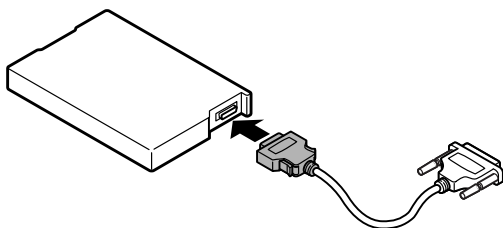
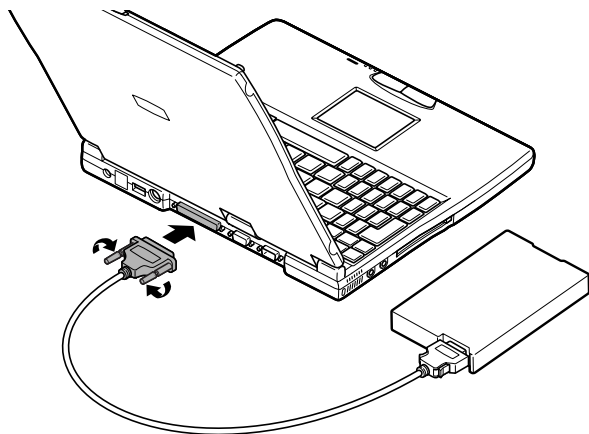
フロッピーディスクドライブを取り付ける

本機でフロッピーディスクを使用する場合は、添付のフロッピーディスクドライブを取り付けます。

◎ フロッピーディスクドライブの取り付け方

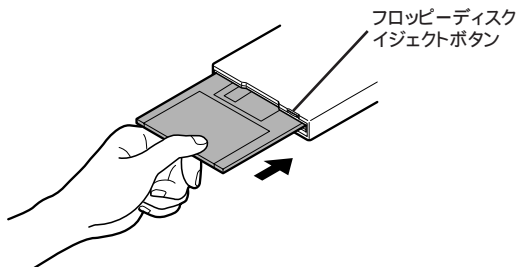
1 **「スタート」ボタン→「Windowsの終了」で「電源を切れる状態にする」を選択し、「OK」ボタンをクリックして本機の電源を切る**

2 **電源コードのプラグをACコンセントから抜いてから、ACアダプタを本機から取り外す**

3 **フロッピーディスクドライブのコネクタにケーブルを取り付ける**

4 **手順3で取り付けたケーブルのコネクタのもう一方を、本体背面のパラレルコネクタに差し込み、ネジを回して固定する**

フロッピーディスクのセットのしかたと取り出し方

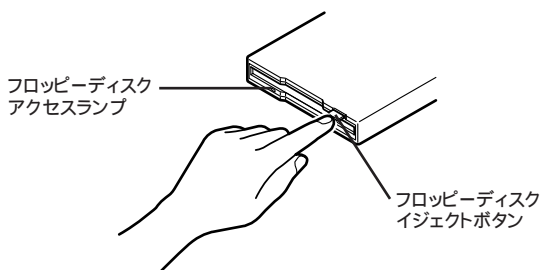
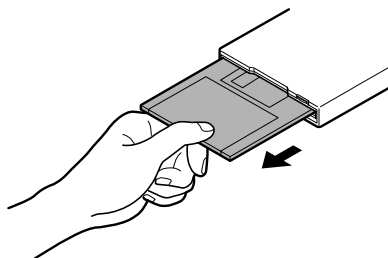
◎ フロッピーディスクのセットのしかた

1 カチッと音がするまでフロッピーディスクをゆっくりと水平に差し込む

フロッピーディスクがセットされるとフロッピーディスクイジェクトボタンが少し飛び出します。

◎ フロッピーディスクの取り出し方

チェック!! フロッピーディスクを書き込み、または読み取り中は、フロッピーディスクドライブにあるフロッピーディスクアクセスランプが点灯します。アクセスランプ点灯中は、絶対にフロッピーディスクを取り出さないでください。ドライブの故障やデータの不具合の原因となります。

1 フロッピーディスクイジェクトボタンを押す

フロッピーディスクが少し飛び出します。

2 フロッピーディスクをゆっくりと水平に引き出す

チェック!! 本機ではPC-9800シリーズでフォーマットされたフロッピーディスクでシステム起動することはできません。PC-9800シリーズでフォーマットされたフロッピーディスクで起動しようとしても、エラーメッセージなどは表示されないので注意してください。

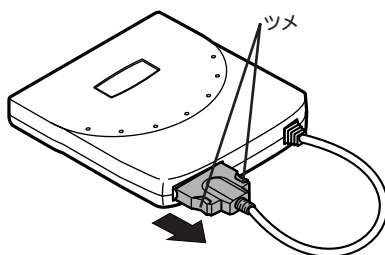
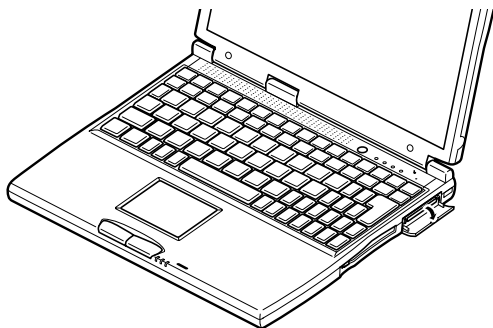
CD-ROMドライブ

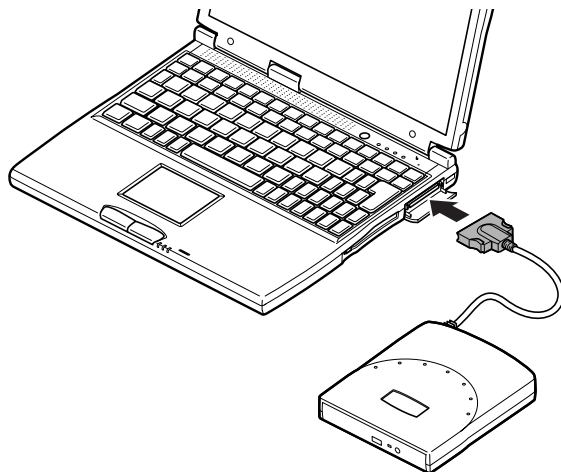
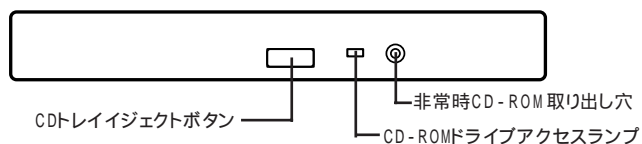
ここではCD-ROMドライブの本機への接続方法と取り扱いについて説明しています。

CD-ROMドライブの接続のしかた

1 「スタート」ボタン→「Windowsの終了」で「電源を切れる状態にする」を選択し、「OK」ボタンをクリックして本機の電源を切る

2 電源コードのプラグをACコンセントから抜いてから、ACアダプタを本機から取り外す

3 添付のCD-ROMドライブの背面に収納されているコネクタを左右のツメを押しながら取り外す

4 本機の右側面のCD-ROMドライブ用コネクタカバーを開く

5 CD-ROMドライブのコネクタを本機のCD-ROMドライブ用コネクタに取り付ける

カチッと音がするまで押し込んでください。

CD-ROMドライブを使用するにあたって

> CDトレイイジェクトボタンやアクセスランプ、非常用CD-ROM取り出し穴の位置や形状はイラストと多少異なることがあります。

◎ 使用上の注意

・CD-ROMドライブ内のレンズには触れないでください。指紋などの汚れによってデータが正しく読み取れなくなるおそれがあります。

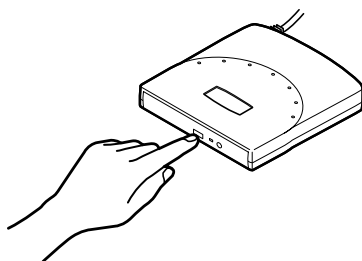
・CD-ROMドライブアクセスランプが点灯しているときは、CD-ROMを絶対に取り出さないでください。本機の故障の原因となります。

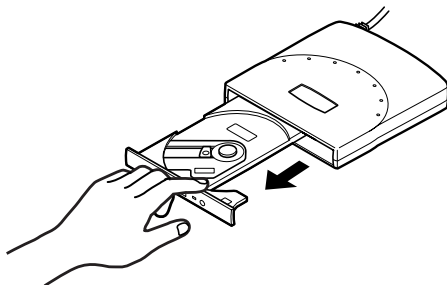
・ラベルなどが貼ってあるなど、重心バランスの悪いCD-ROMを使用すると、本機の操作中に手に振動を感じることがあります。これは故障の原因となるため、CD-ROMの盤面にはラベルやテープなどを貼らないでください。

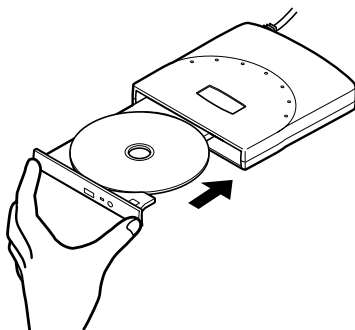
CD-ROMのセットのしかたと取り出し方

◎ CD-ROMのセットのしかた

チェック!! **「CDプレーヤー」または「メディアプレーヤー」を使用する場合、CD-ROMドライブにCD-ROMをセットしていない状態では、「CDプレーヤー」や「メディアプレーヤー」の「EJECT」ボタンを押してもCD-ROMドライブのトレイは出てきません。トレイを出すためには、CD-ROMドライブのイジェクトボタンを押すか、または「マイコンピュータ」を起動して、対象となる「CD-ROMドライブ」アイコンを右クリックし、「取り出し」メニューを選択してください。**

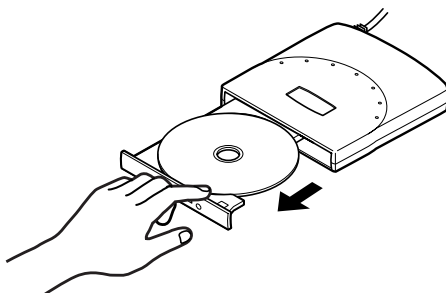
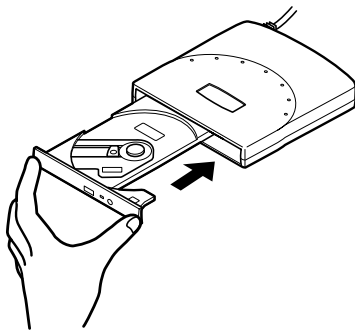
1 CDトレイイジェクトボタンを押す

CDトレイが少し飛び出します。

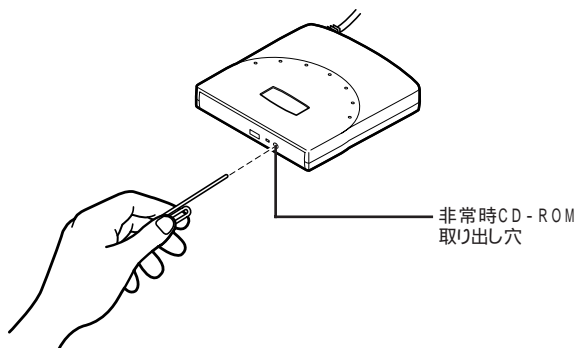
2 手でCDトレイを静かに引き出す

3 **CD-ROMのデータ面 (文字などが印刷されていない面)を下にして、傷など付けないようCDトレイの中央に置き、ディスクを軸にしっかりはめ込む**

4 **CDトレイイジェクトボタンに触れないようにCDトレイ前面を押して、CDトレイを元の位置に戻す**

◎ CD-ROMの取り出し方

1 **CDトレイイジェクトボタンを押す**

CDトレイが少し飛び出します。

2 **手でCDトレイを静かに引き出してから、CD-ROMを取り出す**

3 CDトレイイジェクトボタンに触れないようにCDトレイの前面を押して、CDトレイを元の位置に戻す

◎ 非常時のCD-ROMの取り出し方

ソフトウェアの暴走など不慮の原因で、CDトレイイジェクトボタンを押してもCDトレイが出てこなくなった場合は、非常時CD-ROM取り出し穴に太さ1.3mm程の針金を押し込むと、トレイを手動で引き出すことができます。

針金は太めのペーパークリップなどを引き伸ばして代用できます。

チェック!! CDトレイイジェクトボタンを押してもトレイが出てこない、といった非常時以外は非常時CD-ROM取り出し穴を使って取り出さないようにしてください。

画面表示機能

本機の液晶ディスプレイで表示できる解像度と表示色について説明しています。

本機は、液晶ディスプレイだけでなく、別売のCRTディスプレイ、プロジェクタなどに画面を表示することもできます。

参照 **別売のディスプレイ、プロジェクタについて→「外部ディスプレイを使う」(p.81)**

チェック!! **スクリーンセーバーを設定しているときに、液晶ディスプレイを閉じてもう一度開くと、まれに本機の液晶ディスプレイに画面が表示されない場合があります。この場合は、【Fn】+【F5】を1回押すことで画面を表示することができます。**

用語 **解像度**

解像度とは、ディスプレイの画面上に表示できる文字や図面などの情報量を表すものです。この数字が大きくなるほど、画面上に一度に多くの情報を表示することができ、より細かな表現ができます。

表示を調整する

キーボードの【Fn】を使うと、次のような表示の調整ができます。

機　　能	キー操作	説　　明
ディスプレイ切り替え	【Fn】+【F5】	別売のCRTディスプレイが接続されているとき、キーを押すごとに、「外部モニター」→「両方表示」→「内蔵液晶ディスプレイ」の順に切り替わります(→p.83)。
輝度を下げる ▼☀	【Fn】+【F6】	キーを押すごとに、液晶ディスプレイの輝度が低下します(8段階)。
輝度を上げる ▲☼	【Fn】+【F7】	キーを押すごとに、液晶ディスプレイの輝度が増加します(8段階)。

表示できる解像度と表示色

本機のカラー液晶ディスプレイは、標準で次の解像度と表示色を表示できます。

解像度（ドット）	表示色	本機の液晶ディスプレイのみに表示	別売のディスプレイのみに表示	本機の液晶ディスプレイと別売のディスプレイの同時表示※1
640×480	26万色中256色	○	○	○
	65,536色	○	○	○
	1,677万色※2	○	○	○
800×600	26万色中256色	○	○	○
	65,536色※3	○	○	○
	1,677万色※2	○	○	○
1,024×768	26万色中256色	×	○	×
	65,536色	×	○	×
1,280×1,024	26万色中256色	×	○	×
1,600×1,200	26万色中256色	×	○	×

○　：フルスクリーン表示可能
※1：別売CRT未接続時は本機の液晶ディスプレイのみ
※2：本機の液晶ディスプレイでは、ウィンドウアクセラレータのディザリング機能により実現
※3：出荷時の設定

解像度と表示色を変更する

ディスプレイの解像度と表示色の変更はコントロールパネルで設定します。

◎ 本機の画面の設定を変更する

1 **「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」で「コントロールパネル」を開き、「画面」アイコンをダブルクリックする**

「画面のプロパティ」ウィンドウが表示されます。

2 「設定」タブをクリックする

3 画面の領域または色を変更する

画面の領域の変更：

「画面の領域」でつまみを「大」の方向へドラッグすると高解像度に、「小」の方向へドラッグすると低解像度になります。

色の変更：

「色」でをクリックし、選択一覧から変更します。この選択一覧には、使用している液晶ディスプレイとディスプレイアダプタが対応しているカラーパレットが一覧表示されます。

> High Color(16ビット)とは65,536色のことで、True Color(24ビット)は1,677万色のことです。

4 設定が終了したら、「OK」ボタンをクリックする

このあとは、画面の指示に従って操作してください。

バッテリで本機を使う

本機は、ACアダプタを使用せずに、添付のバッテリパックだけで駆動することができます。

バッテリの充電

本機に添付のバッテリパックや、購入してきた別売のバッテリパックをはじめて使うときは、まずバッテリをフル充電する必要があります。

チェック!!
- **バッテリの充電中は、バッテリパックを本機から取り外さないでください。ショートや接触不良の原因になります。**
- **購入直後や長時間放置したバッテリでは、バッテリ駆動ができないことや動作時間が短くなること、バッテリ残量が正しく表示されないことなどがあります。必ずフル充電してから使用してください。**

◎ バッテリの充電のしかた

本機にバッテリパックを取り付けてACアダプタをACコンセントに接続すると、自動的にバッテリの充電が始まります。
本機の電源を入れて使用していても充電されますが、周辺機器の接続状態によって充電時間が変化します。

> 充電できる電池容量は、周囲の温度によって変わります。 また、高温だと充電が中断することがありますので、18〜28℃での充電をおすすめします。

参照 **バッテリの充電時間について→「機能一覧」(p.128)**

チェック!! **本機を使用する場合は、必ず本機のバッテリスロットにバッテリパックを取り付けてください。**

◎ 充電状態を表示ランプで確認する

バッテリの充電状態を表示ランプで確認することができます(→p.4)

充電状態	バッテリ充電ランプ
AC電源駆動時に バッテリ充電完了(フル充電)	緑色点灯
バッテリを充電中	オレンジ色点灯
充電完了(フル充電)	消灯
バッテリの充電が必要	オレンジ色点滅

チェック!! AC電源駆動時にバッテリ充電が完了した後、ACアダプタを抜き差しすると、バッテリ充電ランプが再びオレンジ色に点灯しますが、バッテリ充電は完了していますので、しばらくすると緑色点灯に戻ります。

バッテリで本機を使うときの注意

チェック!!

- **バッテリが充分に充電されているときは、特に必要でないかぎり、バッテリパックの取り付けや取り外しをしないでください。 故障の原因となります。**
- **充電を行う際には、できるかぎりフル充電まで充電することをおすすめします。部分的な充放電(特にローバッテリ付近)を何度も繰り返して使用すると、バッテリ残量に誤差が生じるようになり、正しいバッテリ残量が確認できない状態になってしまいます。このような状態で使用していると、フロッピーディスクやハードディスクの読み書き中にバッテリ残量がなくなって電源が切れてしまったときに、作成中のデータが失われたり、ハードディスクのデータが壊れたりすることがあります。**

◎ バッテリパックを長持ちさせるには

次のような点に気を付けると、バッテリパックを長持ちさせることができます。

- バッテリの残量をできるだけ少なくしてから充電する
- 充電はフル充電(バッテリ充電ランプが消灯)になるまで中断しない
- 定期的にバッテリの放電を行う(バッテリリフレッシュ→p.38)
- 本機を1カ月以上使わないときは、バッテリパックを取り外して、涼しいところに保管する

◎ バッテリの上手な使い方

・バッテリだけで本機を長時間使用する場合は、本機の省電力機能(→p.43)を使用してください。

・バッテリは、自然放電しています。本機を長期間使用しない場合でも、2〜3カ月に一度は充電することをおすすめします。

◎ バッテリ駆動中にバッテリ残量が少なくなったときは

バッテリの残量が少なくなると警告音が鳴ってバッテリ残量が少ないというメッセージが表示されます。この場合は、次の操作を行ってください。

・ACコンセントから電源を供給する

いったん本機の電源を切り、ACアダプタを接続してACコンセントから電源を供給してください。ACコンセントから電源を供給すると、バッテリ充電ランプがオレンジ色に点灯し、バッテリの充電が始まります。

・ACコンセントが使えない場合

使用中のソフトウェアを終了して、本機の電源を切ってください。

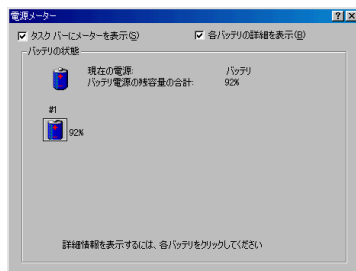
上記の操作をしないでそのままにしておくと、再度バッテリ残量が少ないというメッセージが表示され、しばらくすると自動的にスリープ状態(→p.44)になります。

バッテリ残量の確認

バッテリ残量は、次の3つの方法で確認することができます。

・Windowsのタスクバーにある■の上にマウスポインタを合わせる

**この画面はモデルによって異なることがあります。
また、アイコンはバッテリの残量により異なります。**

・タスクバーのをダブルクリックして、表示された「電源メーター」ウィンドウを見る

別売のバッテリパックを初めて取り付けたときに、画面上の電池マークに「?」が表示される場合がありますが、バッテリパックをフル充電すると「?」は消えて正常な表示になります。いったんフル充電してから使用してください。

・「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」で「コントロールパネル」を開き、「電源の管理」アイコンをダブルクリックして、表示された「電源の管理のプロパティ」ウィンドウの「電源メーター」タブを見る

ACコンセントから電源を供給しているときは、はに変わります。

バッテリリフレッシュ

バッテリは、使用しているうちに徐々に画面に表示されているバッテリ残量と実際の残量にずれが生じることがあります。このようなときは「バッテリリフレッシュ」を実行すると、残量表示のずれを解消できます。

参照 バッテリ残量の確認→p.37

◎ バッテリリフレッシュの実行

1 **本機を使用中の場合は、「スタート」ボタン→「Windowsの終了」で「電源を切れる状態にする」を選んで「OK」ボタンをクリックし、本機の電源を切る**

2 **本機がAC電源駆動になっている場合は、電源コードのプラグをACコンセントから抜いてから、ACアダプタを本機から取り外す**

3 **バッテリパックを取り付けていない場合は、バッテリパックを本機に取り付ける（→p.41）**

4 **本機にACアダプタを接続し、電源コードのプラグをACコンセントに差し込む**

5 **本機の電源を入れ、「NEC」のロゴが表示されたらすぐにキーボードの【F2】を押す**

「NEC」のロゴの画面下部にキーの説明が表示されます。

6 **【↓】を押して「Power Management Setup」を選択し、【Enter】を押す**

7 **【↓】を押して「Battery Refresh」を選択し、【F6】または【F7】を押す**

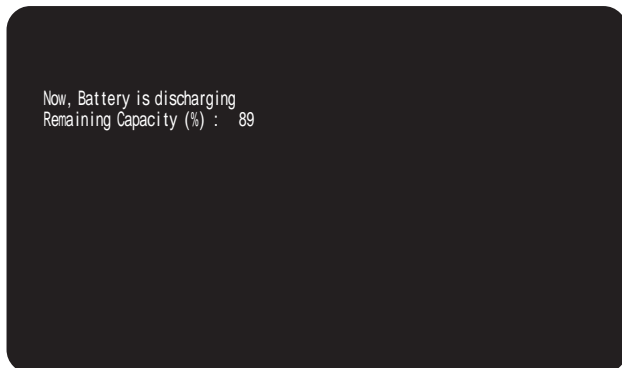
次のようなメッセージが表示されます。

```
When you want to make battery calibration,
please do not remove the AC adapter and
battery until the calibration is finished.

Do you wish to calibrate your battery?(y/n)
```

8 【Y】を押す

次のような画面が表示され、バッテリリフレッシュが始まります。

```
Now, Battery is discharging
Remaining Capacity (%) :   89
```

チェック!! **・バッテリリフレッシュ中は、ACアダプタを取り外さないでください。また、バッテリリフレッシュ中は、液晶ディスプレイを開いたままにしてください。**

・バッテリリフレッシュの所要時間の目安は、満充電状態で最低約7.5時間です。

バッテリリフレッシュが終了すると、本機の電源が切れます。

バッテリパックの交換

◎ 交換の目安

バッテリリフレッシュを行った後に、バッテリをフル充電(バッテリを充電してバッテリ充電ランプが消灯した状態)にしても使用できる時間が短くなったら、新しいバッテリパックを購入して交換してください。

参照 **バッテリリフレッシュ→p.38**

本機に取り付けられる交換用バッテリパックは次のものです。

・PC-VP-BP07(バッテリパック)

◎ バッテリパックの交換のしかた

⚠警告

●雷が鳴りだしたら、本機や電源コードに触れないでください。また、機器の接続や取り外しを行わないでください。 落雷による感電のおそれがあります。

● 使用を終えたバッテリパックを分解したり、火気に投じることは危険です。絶対にしないでください。破裂したり、液漏れしたりすることがあります。

⚠注意

●濡れた手で電源コードを抜き差ししないでください。感電の原因となります。

チェック!!

- バッテリスロットの端子部分には絶対に触れないでください。接触不良の原因となります。
- スタンバイ状態のときにバッテリパックを交換すると、ハードディスクなどに保存されていないデータが失われます。電源ランプが点滅しているときには、一度データを復帰させてデータを保存してからWindowsを終了し、本機の電源を切ってください。

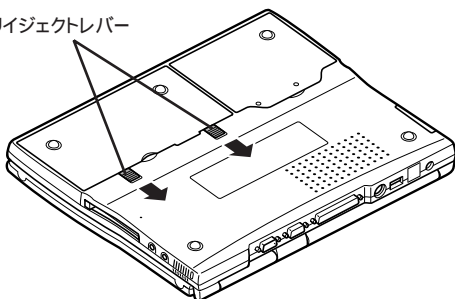
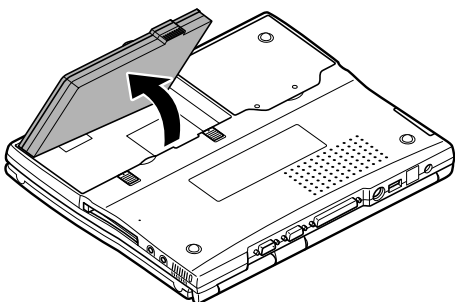
1 **「スタート」ボタン→「Windowsの終了」で「電源を切れる状態にする」を選択し、「OK」ボタンをクリックして本機の電源を切る**

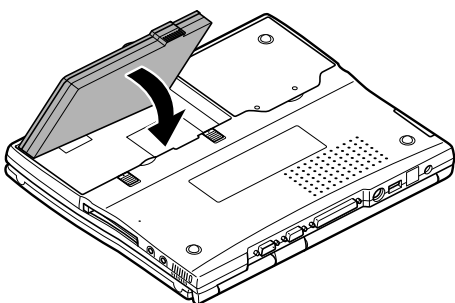
2 **電源コードのプラグをACコンセントから抜いてから、ACアダプタを本機から取り外す**

ACアダプタを使用していない場合は、この操作は必要ありません。

3 **液晶ディスプレイを閉じて、本機を裏返す**

机の上など、平らなところに置いてください。

4 2カ所のバッテリイジェクトレバーを矢印の方向に同時にスライドさせる

5 古いバッテリパックを取り外す

6 新しいバッテリパックを図のように取り付ける

カチッと音がするまでバッテリパックを入れます。

チェック!! **不要になったバッテリパックは、地方自治体の条例に従って廃棄してください。**

省電力機能

ここでは、本機で使用できる省電力機能について説明しています。

電源管理のモードについて

本機には、「APMモード」と「ACPIモード」という2種類の電源管理のモードがあります。

APMモード(ご購入時の設定)

APM(Advanced Power Management)とは、パソコンや周辺機器の電源管理をBIOSで行うモードです。

ACPIモード

ACPI(Advanced Configuration and Power Interface)とは、パソコンや周辺機器の電源管理、または周辺機器の管理をWindows 98で行うモードです。

モードごとに使用できる機能は、次のとおりです。

	APMモード(ご購入時の設定)	ACPIモード
スタンバイ状態(サスペンド)	○	○
休止状態(ハイバネーション)	○	—
スリープからの復帰(レジューム)	○	○
パワーマネージメント機能	○	○
ホットキー機能	○(→p.8)	○※(→p.118)
セキュリティ機能	○	○

※一部の機能のみ使用可能

チェック!! ACPIモードは、APMモードに比べて制限や注意事項があるので、特に必要でなければAPMモード(ご購入時の設定)で使用することをおすすめします。

参照 電源管理のモードの切り替え→PART4の「ACPIモードについて」(p.118)

省電力機能について

本機には、電力の消費を節約できる省電力機能が搭載されています。
省電力機能には、「スタンバイ状態(サスペンド)」と「休止状態(ハイバネーション)」があり、本体の主要な部分への電力供給を停止することで消費電力を抑えるものです。これらの2つの状態をあわせて「スリープ状態」と呼ぶこともあります。

スタンバイ状態(サスペンド)

作業中のデータを一時的にメモリに保存し、消費電力を抑える機能です。データはメモリに保存されているため、復帰させるときはすぐに元の状態に戻すことができます。スタンバイ状態のことを「サスペンド」、データの復帰を「レジューム」と呼ぶこともあります。詳しくは、p.46をご覧ください。

休止状態(ハイバネーション)

作業中のデータをハードディスクに保存し、電源を切る機能です。作業内容の保持のために電力を消費しないので、長時間作業を中断するときなどに便利です。普通に電源を切るのとは異なり、データを復帰させるときはWindows 98を起動する操作をせずにすぐに元の状態に戻すことができます。詳しくは、p.47をご覧ください。

スリープからの復帰(レジューム)

スタンバイ状態や休止状態などのスリープ状態から、手動操作または自動操作によってデータを復帰させる機能です。Windows 98を起動する操作が不要なので、すぐにデータを呼び出し、作業を再開することができます。データの復帰のことを「レジューム」と呼ぶこともあります。詳しくは、p.49をご覧ください。

これらの機能のほか、次のような省電力機能を使うことができます。

パワーマネージメント機能

バッテリ駆動時などに無駄な電力の消費を抑える機能です(→p.50)

◎ スリープ状態にするときの注意事項

- ネットワーク（LAN）に接続しているときには、スリープ状態にしないでください。本機が正常に動かなくなることがあります。
- 次のような場合は、スリープ状態にしないでください。スリープ状態から正しく復帰できなくなることがあります。
  - ・プリンタへ出力中
  - ・赤外線通信をしているとき（赤外線通信アプリケーションを実行中）
  - ・通信用アプリケーションを実行中
  - ・電話回線を使って通信中
  - ・LANに接続中
  - ・音声または動画を再生中
  - ・ハードディスク、CD-ROM、フロッピーディスクにアクセス中
  - ・システムの「プロパティ」ウィンドウを表示中
  - ・Windowsの起動／終了処理中
  - ・スリープ状態に対応していないアプリケーションを使用中
  - ・スリープ状態に対応していないPCカードを使用中
- 通信用アプリケーションを使用中の場合は、通信用アプリケーションを終了させてからスリープ状態にしてください。
- スリープ状態への移行中は、各種ディスクやPCカードの入れ替えなどを行わないでください。データが正しく保存されないことがあります。
- スリープ状態のときに、PCカードを入れ替えるなどの機器構成の変更をすると、スリープ状態から正しく復帰できなくなることがあります。
- ATAカード上のファイルをアプリケーションから開いているときは、スリープ状態にしないでください。スリープ状態にする場合は、ATAカード上のファイルを閉じてください。
- ATAカードを挿入した状態で、スリープ状態にすると、時間がかかる場合があります。
- CardBus対応PCカードと通常のPCカード（PCMCIA2.1/JEIDA4.2）を同時に使用しているときに、スリープ／復帰や、Windowsの起動／再起動を行う場合は、いったん、PCカードを抜いておいてください。Windowsの起動が完了してから、再度カードを挿入してください。
- 「スタート」ボタン→「設定」→「アクティブデスクトップ」の「Webページで表示」にチェックマークがついていると、自動的にスリープ状態にできない場合があります。この場合は「Webページで表示」をクリックしてチェックマークを外してください。

スタンバイ状態（サスペンド）

作業中のデータを一時的にメモリに保存し、消費電力を抑える機能です。データがメモリに保存されている状態を「スタンバイ状態」または「サスペンド」といいます。

◎ スタンバイ状態（サスペンド）にする

次のいずれかの方法でデータをメモリに保存することができます（出荷時の設定）。

- **Windowsのスタートメニューから「Windowsの終了」を選び、「スタンバイ」を選ぶ**
- **【Fn】を押しながら【F4】を押す**

スタンバイ状態になると、電源ランプ（ または ）が緑色に点滅します。データの復帰のさせ方については、p.49をご覧ください。

そのほかにも、設定を行うことにより、次のような方法でスタンバイ状態にすることができます。

スタンバイ状態にする方法	設定方法
自動	「コントロールパネル」→「電源の管理」→「電源設定」の「システムスタンバイ」で設定
液晶ディスプレイを閉じる（LCD連動スリープ）	BIOSセットアップメニューの「Advanced CMOS Setup」で「LCD Suspend」を「On」に設定（→p.109）
電源スイッチを押す	BIOSセットアップメニューの「Advanced CMOS Setup」で「Power Switch Selection」を「Suspend」に設定してから、「Power Management Setup」で「Suspend Mode」を「DRAM」に設定（→p.109,110）

チェック!! **スタンバイ状態のときにバッテリの残量がなくなると、自動的に休止状態（ハイバネーション）になります。休止状態への移行中に本体に衝撃や振動を加えると、故障やデータ消失の原因となりますので注意してください。バッテリのみで使用している場合には、あらかじめバッテリの残量を確認しておいてください。**

休止状態(ハイバネーション)

作業中のデータをハードディスクに保存し、電源を切る機能です。データが保存されている状態を「休止状態」または「ハイバネーション」といいます。

◎ 休止状態(ハイバネーション)のために使用する領域について

チェック!!
- **本機の内蔵ハードディスクには、休止状態(ハイバネーション)のために使用する「Non-DOS領域」が確保されています。この「Non-DOS領域」は削除しないようにしてください。休止状態の機能が利用できなくなってしまいます。**
- **「Non-DOS領域」を削除してしまった場合は、本機を「標準再セットアップ」または「カスタム再セットアップ〜全領域を1パーティションにして再セットアップする」で再セットアップしてください。**

参照 **再セットアップ→『活用ガイド　ソフトウェア編』の「再セットアップするには」**

休止状態のための領域を削除した直後であれば、次の手順で再設定することができます。

1 「スタート」ボタン→「Windowsの終了」で「MS-DOSモードで再起動する」を選択し、「OK」ボタンをクリックする

本機がMS-DOSモードで再起動します。

チェック!! **この操作はMS-DOSモードで行います。Windows 98の「MS-DOSプロンプト」ウィンドウでは行うことはできません。**

2 MS-DOSモードで再起動したら、キーボードからCD ¥NECUTILS ¥HDPREPと入力して【Enter】を押す

3 「C:¥NECUTILS¥HDPREP>」と表示されているのを確認してから、HDPREPEZと入力して【Enter】を押す

処理の状況が“%”で表示されます。

チェック!! **処理の状況が“100%”まで表示されずに「〜ERROR〜」が含まれるメッセージが表示された場合は、「標準再セットアップ」または「カスタム再セットアップ〜全領域を1パーティションにして再セットアップする」を行ってください。**

4 処理が終了し、「Please reboot～」と表示された後、「C:¥NECUTILS¥HDPREP>」が表示されたら、本機の電源を切って、5秒以上たってから再度電源を入れてください。

これで休止状態のための領域の再設定は終了です。

◎ 休止状態にする(ハイバネーションにする)

次のような方法で休止状態にすることができます。

休止状態にする方法	方　法
自動	「コントロールパネル」→「電源の管理」→「電源設定」の「システムスタンバイ」で設定 または、BIOSセットアップメニューの「Power Management Setup」で「Suspend Mode」を「Disk」に設定(→p.110)
「スタート」ボタン→「Windowsの終了」で「スタンバイ」をクリックする	BIOSセットアップメニューの「Power Management Setup」で「Suspend Mode」を「Disk」に設定(→p.110)
【Fn】を押しながら【F4】を押す	
電源スイッチを押す	BIOSセットアップメニューの「Advanced CMOS Setup」で「Power Switch Selection」を「Suspend」に設定してから、「Power Management Setup」で「Suspend Mode」を「Disk」に設定(→p.109,110)

「Suspend to disk」の表示とともに、作業状況を示す棒グラフが表示されます。

休止状態になると、電源ランプ(またはが消灯します。データの復帰のさせ方については、p.49をご覧ください。

スリープからの復帰(レジューム)

液晶ディスプレイを開いた状態で電源スイッチを押すことにより、スリープ状態のデータを呼び出すことができます。
休止状態(ハイバネーション)から復帰する場合は、「Resuming from Disk」の表示とともに、作業状況を示す棒グラフが表示されます。

チェック!!

- **スタンバイ状態のときは、キーボードのいずれかのキーを押すことにより、スタンバイ状態から復帰できます。**
- **スリープ状態にしてからすぐにデータを復帰させたいときには、本機に負担がかからないよう、スリープ状態になってから約5秒以上たってから操作してください。**
- **スリープ状態のときにPCカードの入れ替えや周辺機器の取り付け/取り外しなどの機器構成の変更をすると、データを正常に復帰できなくなることがあります。**
- **CD-ROMドライブにフォトCDを入れたままスリープ状態にした場合、データの復帰に時間がかかることがあります。**

パワーマネージメント

◎ Windows 98でのパワーマネージメント

コントロールパネルの「電源の管理」の機能を使うと、あらかじめ設定されている電源の状態を選ぶことができます。
ご購入時には、「常にオン」「ホーム／オフィス　デスク」「ポータブル／ラップトップ」の3つのモードが設定されています。それぞれのモードの設定内容は、「電源設定」タブで確認することができます。

1 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」で「電源の管理」アイコンをダブルクリックする

「電源の管理」ウィンドウが表示されます。

2 「電源設定」タブをクリックする

3 「電源設定」からモードを選択し、「システムスタンバイ」、「モニタの電源を切る」、「ハードディスクの電源を切る」のそれぞれの時間を設定する

4 「名前を付けて保存」ボタンをクリックする

5 任意の電源設定の保存名を入力して「OK」ボタンをクリックする

これで、新しいモードが登録されました。

セキュリティ機能

本機には、本機の不正使用やデータなどの盗難を予防するためのセキュリティとしてパスワード機能が搭載されています。

チェック!! セキュリティ機能を使用している場合でも、「絶対に安全」ということはありません。重要なデータなどの管理、取り扱いには十分注意してください。

本機のセキュリティ機能

本機のセキュリティ機能には、次のようなものがあります。セキュリティ機能は、BIOSセットアップメニューで設定します(→p.113)。

- **ユーザパスワード(User Password)**

  日常的に本機を使用する人のためのパスワードです。

- **スーパバイザパスワード(Supervisor Password)**

  システム管理者など、本機の運用を管理する人のためのパスワードです。

チェック!! スーパバイザパスワードを忘れてしまった場合には解除処置が必要です。Bit-INN、NECサービスセンター、サービスステーションにご連絡ください。

参照 NECのお問い合わせ先→『NEC PC あんしんサポートガイド』

パスワードの解除処置を依頼されるときは、次のことを確認してください。
- パスワード解除処置は保証期限内でも有償です。
- パスワード解除処置は原則としてお客様のお持ち込みによる対応となります。また、機密保持のため、お客様ご本人からのご依頼に限り処置をお受けいたします。
- パスワード解除処置を依頼されるときには、次のものをすべてご用意ください。
  1. 本機の購入を証明するもの(保証書など)
  2. 身分証明書(お客様ご自身を確認できるもの)
  3. 印鑑
- パスワード解除処置をご依頼の際、受付にてお客様ご自身により専用の用紙に必要事項を記入・捺印していただくことが必要です。専用用紙の記載事項にご同意いただけない場合には、処置のご依頼に対応しかねる場合がありますので、あらかじめご了承ください。

セキュリティ機能の使用例

セキュリティ機能は、本機の使用状況に合わせて次のように利用できます。

◎ 日常的な使用者以外が本機の設定を管理したい場合

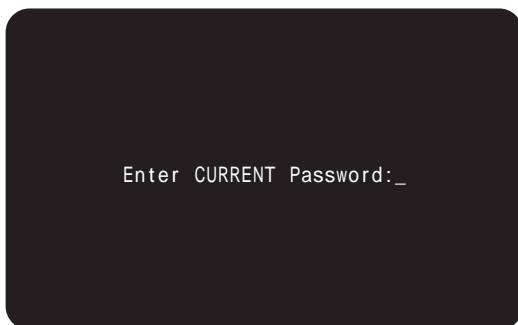
本機を日常的に使用している人とは別の人が本機の設定をしたい場合、はじめに管理者がユーザパスワードとスーパバイザパスワードの両方を設定しておき、ユーザパスワードのみを各利用者に通知します。この機能を使うと、管理者以外はBIOSセットアップメニューのパスワードに関する設定を変更することができなくなります。

◎ 使用者が本機の設定を管理したい場合

本機を日常的に使用する人がBIOSセットアップメニューのパスワードに関する設定も自由に行いたい場合、使用者がスーパバイザパスワードを設定します。この機能を使うと、使用者以外には本機の起動やBIOSセットアップメニューの設定変更ができなくなります。

パスワードを設定しているときの電源の入れ方

BIOSセットアップメニューの「Advanced CMOS Setup」の「Password On Boot」が「Always」に設定されている場合は、次の手順で電源を入れます。

1 **本機の電源を入れるとパスワードを入力する画面が表示される**

2 **設定されているパスワードをキーボードから入力する**

3 **【Enter】を押す**

正しいパスワードが入力されると、Windowsが起動します。

- パスワードの入力中に、キーボードの【Back Space】などを押しても文字を修正することはできません。
- 誤ったパスワードが入力されると、「×」と表示されます。パスワードの入力に3回失敗すると、パスワードが入力できなくなります。このときは、電源スイッチを押して電源を切ったあと、再度手順1からやり直してください。

赤外線通信機能

赤外線通信とは、パソコンとパソコンの間をケーブルで接続せずに赤外線でデータの交換を行う通信方法です。本機では、IrDA規格に準拠した、通信速度4Mbpsまでの赤外線通信ができます。

赤外線通信を行うまえに

本機は出荷時の状態では赤外線通信機能を利用できる状態になっていません。本機で赤外線通信機能を利用するには準備が必要です。ここでは、内蔵の赤外線ポートを検出して赤外線ドライバを自動的にインストールします。

◎ 赤外線通信機能を利用するための準備

赤外線通信機能を利用するには、次の手順にしたがって設定を行う必要があります。

1 BIOSセットアップメニューを起動する(→p.104)

2 「Peripheral Setup」の「IR Port(COM2)」を「Auto」にする

3 BIOSセットアップメニューを終了し、本機を再起動する

「NEC 4Mbps 内蔵赤外線ポート」が検出され、赤外線ドライバが自動的にインストールされます。

「システム設定の変更」の画面が表示されます。

4 「はい」ボタンをクリックする

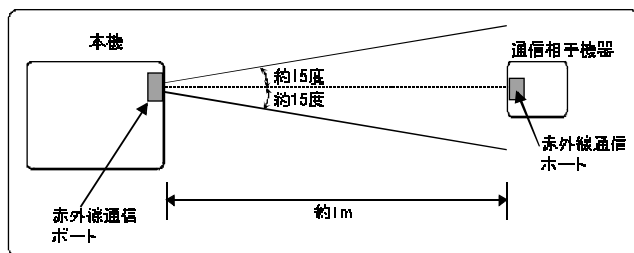
本機が自動的に再起動します。

これで、赤外線通信をするための準備ができました。

◎ 赤外線モニタについて

Windows 98には、赤外線通信の設定や監視を行う「赤外線モニタ」というプログラムがあります。「赤外線モニタ」の使い方については、「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」で「コントロールパネル」を開き、「赤外線モニタ」アイコンをダブルクリックし、ヘルプをご覧ください。

機器の配置について

赤外線通信を行う機器は次の範囲内に配置してください。

・互いの機器の赤外線通信ポートが真正面に向き合うようにする
・互いの機器の赤外線通信ポートの距離を約1m以内にする

◎ 機器を配置するときの注意

・赤外線通信ポートを汚したり、傷つけたりしない
・通信相手機器と本機との間に赤外光を遮るような物を置かない
・互いの機器どうしを接触させない

チェック!! 通信相手の赤外線が本機の赤外線通信ポートまで届かないときや通信相手機器の通信可能距離が本機より短い(本機の場合は約1m以内)ときは、通信相手の機器が本機の通信可能範囲にあっても通信できないことがあります。このようなときは、お互いの赤外線通信ポートを真正面で向き合わせて、できる限り近くに置いてください。このとき、お互いの装置が接触しないようにしてください。

◎ こんなときは通信可能距離が短くなってしまうことがあります。

・直射日光や蛍光灯の直下
・機器どうしが正しく向き合っていない
・他の赤外線通信機器やノイズを発生する機器の近くにある
・本機の赤外線通信ポートの指向性(約15度程度)の範囲を越えているとき

赤外線通信をする

赤外線通信を行うには次の3つの方法があります。状況に応じて使い分けることができます。

- **ケーブル接続**
- **赤外線転送**
- **Intellisync(赤外線通信用アプリケーション)**

◎ ケーブル接続

「ケーブル接続」とは、通信ケーブルや赤外線で他のコンピュータのネットワークや共有フォルダにアクセスする機能です。
詳しくは、「スタート」ボタン→「ヘルプ」でヘルプを開き、「目次」タブから「アクセサリを使う」→「通信」→「ケーブル接続」をご覧ください。

チェック!! **「ケーブル接続」で赤外線を使うときは、「使用するポート」として仮想赤外線COMポートを指定してください。仮想赤外線COMポートは、「赤外線モニタ」の「オプション」タブで「アプリケーションをサポートしているポート」の部分に表示されています。**

◎ 赤外線転送

「赤外線転送」とは、Windows 98が起動している2台のパソコン間で、ファイルの転送を行う機能です。
「赤外線転送」には、次のような方法があります。

◆ エクスプローラを使う

1 **「スタート」ボタン→「プログラム」→「エクスプローラ」をクリックする**

2 **送信するファイルを表示させる**

3 **送信するファイルを選択し、右クリックする**

4 **「送る」→「赤外線の受信側」をクリックする**

◆ドラッグ&ドロップを使う

1 デスクトップの「マイコンピュータ」をダブルクリックする

2 「スタート」ボタン→「プログラム」→「エクスプローラ」をクリックする

3 送信するファイルを表示させる

4 送信するファイルを選択し、「マイコンピュータ」の「赤外線の受信側」へドラッグ&ドロップする

◆ マイコンピュータを使う

1 デスクトップの「マイコンピュータ」をダブルクリックする

2 「範囲内にある利用可能なデバイス」から送信相手のパソコンを選ぶ

3 「ファイルの送信」ボタンをクリックし、送信するファイルを選ぶ

◎ その他の赤外線通信機能ーIntellisync

Intellisyncは、赤外線や通信ケーブルを使ってファイルの転送を行うツールです。

参照 Intellisyncの使い方について→『活用ガイド ソフトウェア編』

チェック!! 赤外線転送とIntellisyncは、同時に使用することはできません。

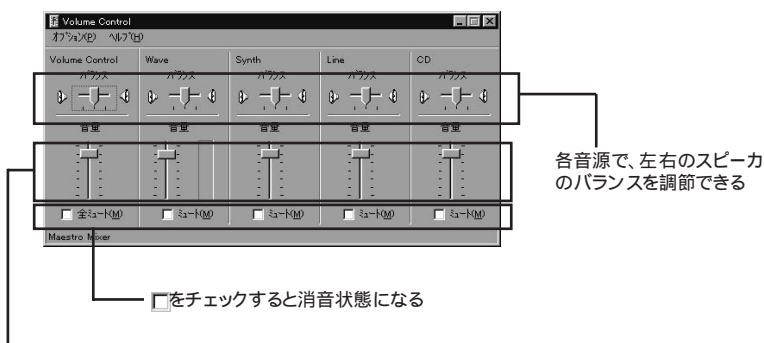
サウンド機能

ボリュームコントロールを使うと、内蔵音源の再生音量や録音時の入力レベルを調節することができます。

ボリュームコントロールを使って調節する

◎ ボリュームコントロールを表示させる

1 **「スタート」ボタン→「プログラム」→「アクセサリ」→「エンターテイメント」→「ボリュームコントロール」をクリックする**

ボリュームコントロールの画面が表示されます。

つまみを上下すると、音量調節ができる

チェック!! **ディスプレイの解像度を低解像度に設定しているときにボリュームコントロールを表示させると、ボリュームコントロールのすべての音源コントロールが表示されない場合や右端の音源コントロールの表示が一部欠ける場合があります。このようなときには、ディスプレイの解像度を変更する（→p.33）か、または「プロパティ」ウィンドウの「表示するコントロール」欄で、使用しない音源の選択を解除し、必要な音源コントロールが表示されるように変更してください。**
なお、ディスプレイの解像度を変更する場合は、ボリュームコントロールを一旦終了し、解像度を変更後に再度ボリュームコントロールを起動してください。

◎ 表示項目を切り替える

ボリュームコントロールに表示させる項目を切り替えることができます。

1 **メニューバーの「オプション」→「プロパティ」をクリックする**

「プロパティ」ウィンドウが開きます。

2 「再生」「録音」「その他」のどれかを選択する

表示項目が切り替わります。

◆ 設定項目一覧

表示できる項目と各項目の説明は次のようになります。

項目名	音量調整の種類		機　能
	再生	録音	
Volume Control	○		スピーカから出力されるすべての音量を調整します。
Wave	○		WAVEデータなどのPCM音源の音量を調整します。
Synth	○		シンセサイザーの音量を調整します。
Line	○	○	本機では使用できません。
CD	○	○	CDオーディオを再生または録音する音量を調整します。
Aux	○	○	本機では使用できません。
Video	○	○	本機では使用できません。
Mic	○	○	マイクロホン端子から入力される音をスピーカから出力するとき、または録音するときの音量を調整します。
Phone In	○	○	本機では使用できません。
PC Spkr	○		ビープ音の音量を調整します。
Zoom Video	○		ZVポートなどからの音量を調整します。
Mixer		○	スピーカから出力されるすべての音を録音するときの音量を調整します。

音量の調整で「その他」を選択すると、横にあるプルダウンメニューから次のような項目を選択できるようになります。

項　目	機　能	
MonoOut	通常は使用しません。	
Effects Controls	Reverb Level	リバーブ効果を調整します。
	Chorus Level	コーラス効果を調整します。
	3DSpreader	音の広がりを調整します。
	Treble Level	高音部を調整します。
	Bass Level	低音部を調整します。
Reverb Controls	Depth	リバーブ効果をさらに詳細に調整します。
	Delay	
Chorus Controls	Feedback	コーラス効果をさらに詳細に調整します。
	Frequency	
	Depth	
Voice Commands	通常は使用しません。	

◎トーン調整で調整する

1 ボリュームコントロール画面に「Mic」項目が表示されていることを確認し、メニューバーの「オプション」→「トーン調整」をクリックする

ボリュームコントロール画面の「Mic」項目に「トーン」ボタンが追加表示されます。

2 「トーン」ボタンをクリックする

トーン調整画面が表示されます。

チェック!!

- **本機では「そのほかの調整」のみ調整可能です。**
- **本機には、ハードウェアに高音、低音の調整機能がないため「トーン調整」の高音、低音の調整はできません。**

FAXモデムカードを利用して電話回線に接続すると、インターネットや電子メールなどのやり取りができます。

電話回線との接続

◎ 接続可能な電話回線のコンセントについて

本機に接続可能な電話回線は2線式のみです。電話回線に接続する前に、使用する電話回線の種類を確認してください。

- **モジュラージャック式**

  本機に付属のモジュラーケーブルで接続できます。

- **3ピンプラグ式コンセント**

  市販の3ピンプラグ変換アダプタを使用するか、NTTにモジュラージャックの取り付けをご相談ください。

- **直結配線方式**

  モジュラー式コンセントに変更する必要があります。NTTにモジュラージャックの取り付けをご相談ください。

チェック!! **本機に添付のFAXモデムカードは、加入電話回線に適合するように設定されています。加入電話回線以外と接続すると、うまく動作しないことや、FAXモデムカードやパソコン本体などを破損するおそれがあります。**

◎ 電話回線を接続する

⚠警告

● **雷が鳴りだしたら、本機や電源コードに触れないでください。また、機器の接続や取り外しを行わないでください。落雷による感電のおそれがあります。**

⚠注意

● **モジュラージャックの端子に触れないでください。電話回線と接続しているモジュラージャックを抜いたときに電話がかかってくると、電話回線上に電圧がかかるため、端子に触れると感電することがあります。**

1 「スタート」ボタン→「Windowsの終了」で「電源を切れる状態にする」を選択し、「OK」ボタンをクリックして本機の電源を切る

2 添付のFAXモデムカードを本機のPCカードスロットにセットする

参照 FAXモデムカードのセットのしかた→「PCカードを使う」(p.85)

3 電源コードのプラグをACコンセントから抜いてから、ACアダプタを本機から取り外す

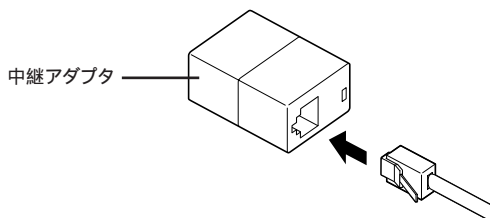
4 電話機のモジュラーケーブルをモジュラージャックなどから取り外す

5 付属のモジュラーケーブルの一方をFAXモデムカードに接続する

6 モジュラーケーブルのもう一方をモジュラージャックなどに接続する

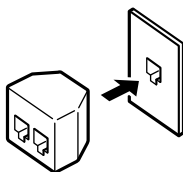
◎ モジュラーケーブルを延長する場合

モジュラーケーブルが短いときは、付属の中継アダプタと市販のモジュラーケーブル(6極2芯用)を利用してモジュラーケーブルを延長してください。

チェック!! モジュラーケーブルを中継アダプタに接続したら、ロックされている(ケーブルを引っ張っても抜けない)ことを確認してください。

◎ 分岐アダプタを使う

電話回線のモジュラージャックが1つの場合、本機で通信している間は、電話機のモジュラーケーブルの接続を取り外す必要があります。電話機のモジュラーケーブルを取り外したくないときは、市販の分岐アダプタをご購入ください。

チェック!!
- **本機と電話機が同時に電話回線を使うことはできません。**
- **本機で通信中は、電話機の受話器を外さないでください。通信が妨害され、通信が切断されることがあります。**

- 分岐アダプタの2つのモジュラージャックは同じ物です。電話機と本機のどちらも接続することができます。
- 本機に付属のモジュラーケーブルの長さが足りないときには、十分な長さの市販のモジュラーケーブルを別途ご購入ください。

ダイヤル設定のしかた

ダイヤルの設定を確認または変更したいときは、次の手順で行います。

1 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」で「コントロールパネル」を開き、「テレフォニー」アイコンをダブルクリックする

「ダイヤルのプロパティ」ウィンドウが開きます。

所在地情報のウィンドウが表示される場合もあります。その際は、0を除いた市外局番を入力し「OK」をクリックします。再度、「ダイヤルのプロパティ」ボタンをクリックすると、「ダイヤルのプロパティ」ウィンドウが表示されます。必要な項目を確認して設定してください。

本機からファックスする

コンピュータのデータを直接FAXに送信したり、コンピュータでFAX受信することもできます。
本機にはファクシミリ通信機能を使うために、次のFAXソフトウェアがインストールされています。

- **FAX-NX**

参照 **FAX-NXの使い方→『インターネットガイド』**

◎ 通信機能使用上の注意

・本機では、データ通信、ファクシミリ通信、インターネット通信の各機能が使えますが、これらの機能は添付のソフトウェア以外では動作しない場合があります。これらの機能の詳しい使用方法については『インターネットガイド』をご覧ください。

・添付のFAXモデムカードは一般電話回線のみに対応しています。

・加入電話回線がトーン式かパルス式かわからないときは、NTTに確認してください。

・回線の状態によっては、接続しにくかったり、通信時に雑音が入ることがあります。

・キャッチホンサービスを受けている場合、モデムで通信中に電話がかかってくると、モデムによる通信が切れる場合があります。

・コードレスホンや親子電話などの加入電話回線以外の回線をご使用の場合は、正常なデータの送受信ができなくなる場合があります。

・回線の状態によっては、希望の通信速度で通信できない場合があります。

・電話局の交換機の種類によっては、14400bpsでのファクシミリ通信ができないことがあります。この場合には、通信速度を9600bpsにしてください。

・データ通信を行う場合、フロー制御はRTS/CTSに設定してください。それ以外に設定すると、データ抜けが生じる可能性があります。

・通常の電話回線を使用する場合、送信レベルはご購入時の設定から変更する必要はありません。ただし、回線状態が悪く、うまく接続できない場合には、送信レベルの調整が必要なことがあります。送信レベルの調整は、工事担任者以外が行うことは法律で禁じられていますので、当社指定のサービス窓口にお問い合わせください。

・ハイパーターミナルなどを使って通信する場合、ATコマンドが必要です。詳しくは、下記のREADMEファイルをご覧ください。

C:¥WINDOWS¥ATCREAD.DOC

・K56flexおよびITU-T V.90の最大受信速度56000bpsは理論値であり、一般の加入電話回線での通信速度とは異なります。

PART

2

周辺機器を使う

別売の周辺機器の接続方法や注意事項などを説明しています。

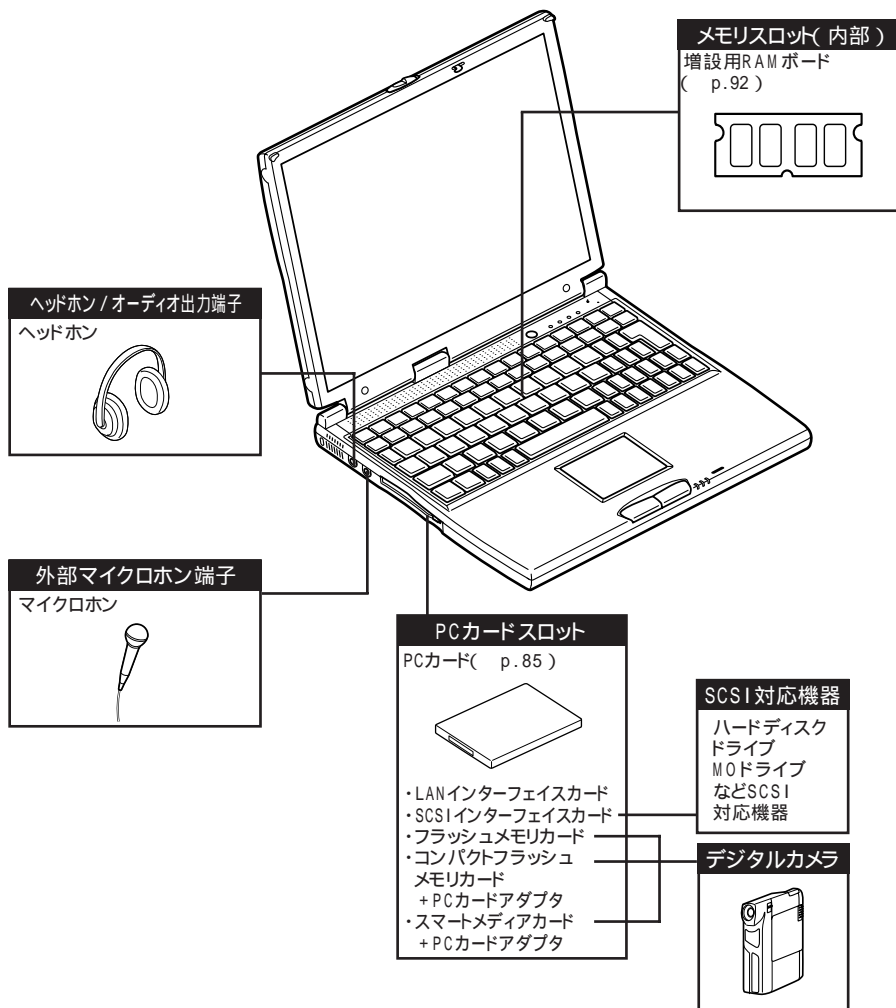
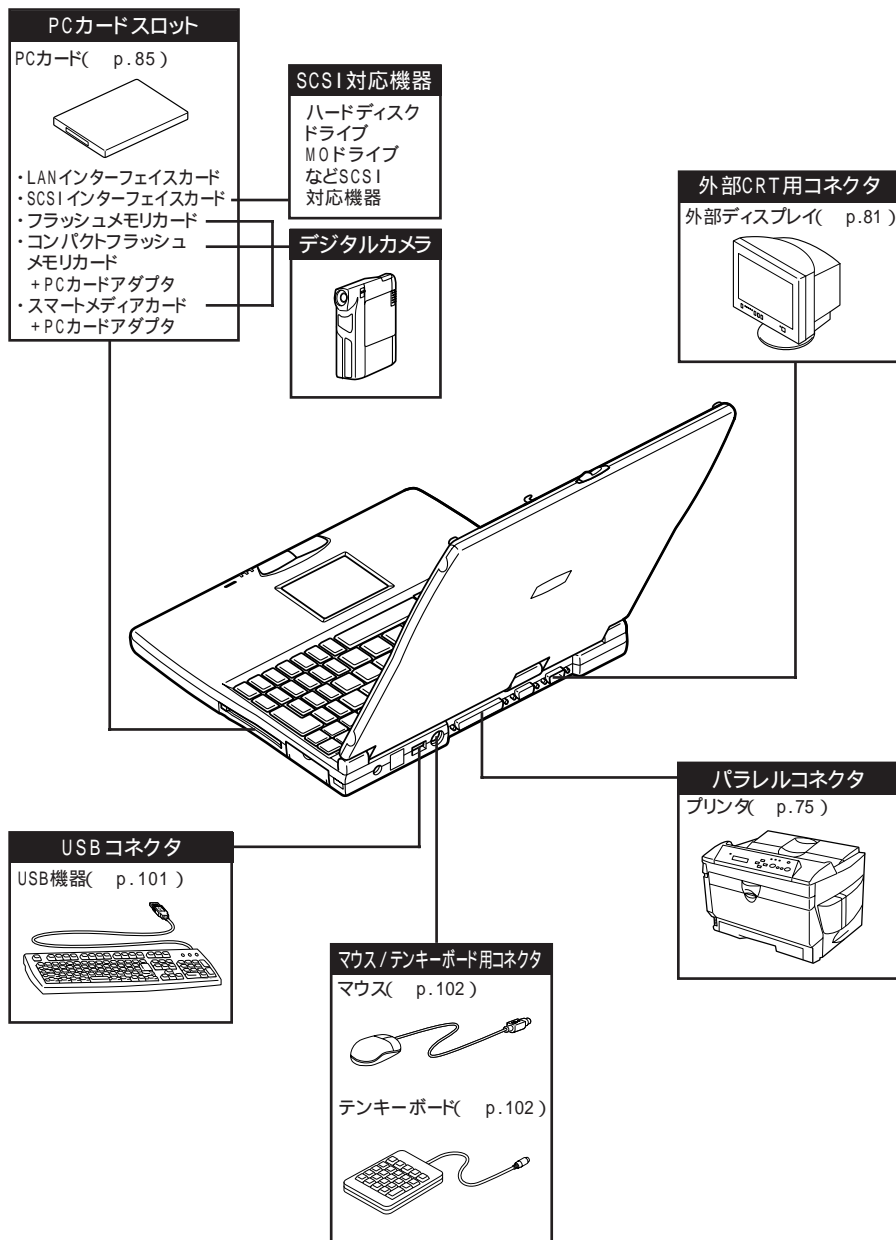
このPARTの内容

接続できる周辺機器

本機には、次のような別売の周辺機器を接続できます。

◆本体左側面

◆ 本体右側面および背面

PCカードスロット
PCカード（→p.85）
・LANインターフェイスカード
・SCSIインターフェイスカード
・フラッシュメモリカード
・コンパクトフラッシュ
メモリカード
＋PCカードアダプタ
・スマートメディアカード
＋PCカードアダプタ
SCSI対応機器
ハードディスク
ドライブ
MOドライブ
などSCSI
対応機器
デジタルカメラ
外部CRT用コネクタ
外部ディスプレイ（→p.81）
パラレルコネクタ
プリンタ（→p.75）
USBコネクタ
USB機器（→p.101）
マウス／テンキーボード用コネクタ
マウス（→p.102）
テンキーボード（→p.102）

周辺機器を利用する

プリンタや外部ディスプレイなど、本機に接続して使用する機器全般を、周辺機器といいます。本機には、さまざまな周辺機器を接続するためのコネクタやポートが用意されています(→p.3)。

ポート

周辺機器や外部のコンピュータと本機との間で信号(データ)をやり取りするための「窓口」となるのがポートです。やり取りする信号(データ)を船荷に例え、それらを積み降ろしする港(ポート)に例えてこの名前が付いています。Windows 98のCOM1ポートは本機のシリアルコネクタ(ポート)に、LPT1はパラレルコネクタ(ポート)にあたります。

周辺機器を利用するための知識

⚠警告

- **雷が鳴りだしたら、本機や電源コードに触れないでください。また、機器の接続や取り外しを行わないでください。落雷による感電のおそれがあります。**

⚠注意

- **周辺機器の取り付け／取り外しをするときは、本機の電源を切ったあと本機と周辺機器の電源コードを抜いてください。電源コードがACコンセントに接続されたまま、周辺機器の取り付け／取り外しをすると、感電の原因となります。**
- **濡れた手で電源コードを抜き差ししないでください。感電の原因となります。**

◎ 周辺機器の取り付け／取り外し時の注意

・本機がスリープ状態のときは、周辺機器を取り付けたり取り外したりしないでください。一度スリープ状態から復帰させて本機を元の状態に戻し、データを保存してから電源を切った後で周辺機器の取り付けや取り外しを行ってください。

- 別売の周辺機器を取り付けるときには、その周辺機器が本機に対応していることを確認してください。また、周辺機器によっては使用上の制限事項がある場合がありますので、周辺機器の説明書などをよくお読みになり使用してください。当社製以外の周辺機器を使用する場合は、機器の製造元／発売元などに上記の事項を確認してください。
- 周辺機器の取り付けや取り外しは、取扱説明書に従って正しく行ってください。
- 周辺機器によっては、専用のケーブルが必要な場合があります。接続する前に確認のうえご用意ください。
- 周辺機器を増設すると、他の機器とリソースが競合してどちらかが使えなくなることがあります。この場合は、以下の手順でリソースが競合しないように変更してください。

1 起動しているアプリケーションをすべて終了する

2 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」で「コントロールパネル」を開き、「システム」アイコンをダブルクリックする

「システムのプロパティ」画面が表示されます。

3 「デバイスマネージャ」タブをクリックする

「デバイスマネージャ」画面が表示されます。

4 「!」や「×」が表示されていて動作しない周辺機器を選択し、「プロパティ」ボタンをクリックする

5 「プロパティ」画面で「リソース」タブをクリックし、「自動設定を使う」を□（オフ）にする

6 競合しているリソースを「リソースの種類」一覧の中から選択し、ダブルクリックする

「競合するデバイス」欄に、競合しているデバイスと、競合しているリソースの種類が表示されます。

7 競合しないリソースの値を設定し、「OK」ボタンをクリックする

「競合の情報」欄に競合しているデバイスと競合しているリソースが表示されます。

チェック!! **他の周辺機器がそのリソースを使用している場合や、「この設定のリソースは変更できません」と表示された場合は、その値への変更はできません。**

選択した周辺機器によっては「ポート番号」と「I/Oの範囲」など複数の変更が必要になることがあります。

8 リソースが競合していないことを確認し、「プロパティ」画面で「OK」ボタンをクリックする

9 「変更不可の環境設定の作成」のダイアログが表示されるので、「はい」ボタンをクリックする

もとの画面に戻るまでに、しばらく時間がかかることがあります。そのままお待ちください。

10 「OK」ボタンをクリックし、「システムのプロパティ」を閉じる

11 「スタート」ボタン→「Windowsの終了」をクリックする

「Windowsの終了」画面が表示されます。

12 「再起動する」をクリックして「OK」ボタンをクリックする

本機が再起動します。

◎ 周辺機器のドライバについて

周辺機器を使うには、本機と周辺機器の仲介をする「デバイスドライバ」と呼ばれる周辺機器専用のソフトウェアを、本機にセットアップする（組み込む）必要があります。
このセットアップには次の2つの場合があります。

- **「プラグ&プレイ機能」対応の周辺機器の場合**

  機器を本機に接続してWindowsを起動すると自動的にドライバの設定が行われ、機器が使用可能な状態になります。

- **「プラグ&プレイ機能」に対応していない周辺機器の場合**

  機器を本機に接続したあと、ドライバの設定が必要な場合があります。設定の詳細は、本機やドライバに添付のREADMEファイルや周辺機器のマニュアルをご覧ください。

> READMEファイルは、「メモ帳」などのテキスト形式のファイルが開けるアプリケーションで簡単に見ることができます。

チェック!! **ドライバが正しく組み込めなかった場合は、周辺機器が使用できないばかりか、本機の動作が不正になることがあります。その場合は、周辺機器のマニュアルに従って、再度ドライバを正しく組み込んでください。**

◎ プラグ&プレイ（PnP）セットアップについて

本機にインストールされているWindows 98には、プラグ&プレイ機能用に多くの周辺機器のドライバがあらかじめ添付されています。接続しようとする周辺機器がプラグ&プレイ機能に対応しており、かつ添付されたドライバの中に該当するものがあれば、周辺機器の検出と設定が自動的に行われます。

◎ 電源を入れる／切るときの順序

本機に周辺機器を接続しているときには、次の順番で電源を入れたり、切ったりするようにしてください。

◆電源を入れるとき

周辺機器の電源を入れる → 本機の電源を入れる

◆電源を切るとき

本機の電源を切る → 周辺機器の電源を切る

プリンタを接続しているときには次の順序で行ってください。

◆電源を入れるとき

プリンタ以外の周辺機器の電源を入れる → 本機の電源を入れる → プリンタの電源を入れる

◆電源を切るとき

プリンタの電源を切る → 本機の電源を切る → プリンタ以外の周辺機器の電源を切る

ただし、プラグ＆プレイ機能を利用してプリンタドライバをセットアップする場合は、プリンタの電源を入れた状態でWindowsを起動してください。

プリンタを使う

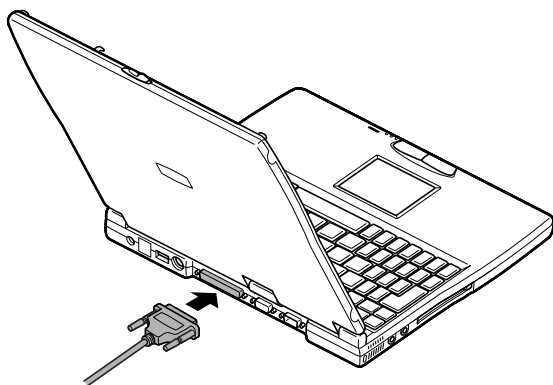
プリンタを使用するには、そのプリンタの機種に対応した専用のドライバが必要です。ドライバは通常フロッピーディスクなどの形でプリンタに添付されています。また、本機にも代表的なプリンタのドライバが数多く添付されています。

プリンタを接続する

本機とプリンタとを接続するには、25ピンパラレルインターフェイスに対応したプリンタケーブルが必要です。
プリンタによっては、本機のUSBコネクタに接続できる機種もあります。その場合は、本機の電源が入っている状態で接続ができます。

1 **「スタート」ボタン→「Windowsの終了」で「電源を切れる状態にする」を選択し、「OK」ボタンをクリックして本機の電源を切る**

2 **電源コードのプラグをACコンセントから抜いてから、ACアダプタを本機から取り外す**

3 **パラレルコネクタにプリンタケーブルの小さいほうのコネクタを向き(上下)に注意して差し込む**

4 **プリンタケーブルの大きい方のコネクタをプリンタのコネクタに差し込む**

接続についてはプリンタのマニュアルもご覧ください。

5 **プリンタの電源ケーブルと本機の電源コードをACコンセントに接続する**

プリンタを設定する

プリンタの設定は、使用するプリンタの機種ごとに、Windowsの「プリンタ」ウィンドウで行います。例えば、会社で使うプリンタと家庭で使うプリンタの機種が異なる場合は、それぞれの機種に対して設定を行う必要があります。

◎ プラグ＆プレイ機能対応のプリンタを設定する

プラグ＆プレイ機能(→p.73)に対応したプリンタを設定する場合は、プリンタを本機に接続したあと、プリンタ→本機の順に電源を入れると自動的にプリンタドライバの組み込みが行われます。

◎ プラグ＆プレイ機能を利用しないでセットアップを行う場合

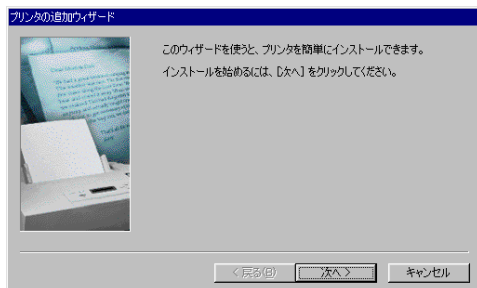
1 **プリンタが正しく接続され、プリンタの電源がONになっていることを確認する**

2 **「スタート」ボタン→「設定」→「プリンタ」をクリックする**

「プリンタ」ウィンドウが表示されます。

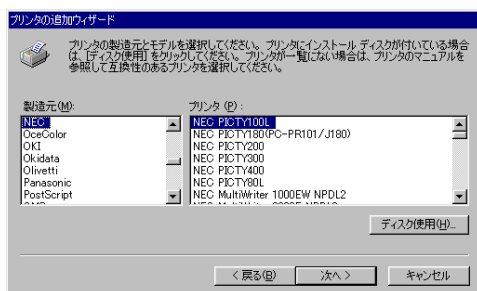
すでに設定済みのプリンタがある場合は、その機種のアイコンが表示されています。

3 「プリンタの追加」アイコンをダブルクリックする

「プリンタの追加ウィザード」ウィンドウが開きます。

4 「プリンタの追加ウィザード」ウィンドウの「次へ」ボタンをクリックする

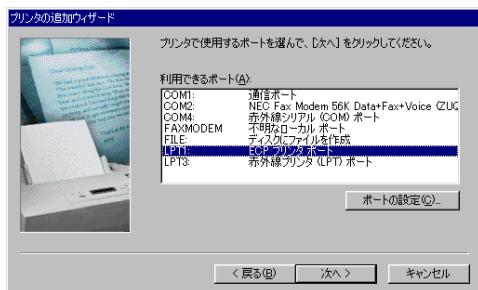
5 「プリンタはどこに接続されていますか?」というメッセージが表示された場合は、「ローカルプリンタ」をクリックして「次へ」ボタンをクリックする

「製造元」と「プリンタ」のリストが表示されます。

6 表示されたリストの中から、使用するプリンタの製造元とプリンタ機種(または互換性のある機種)を選択する

プリンタにインストールディスク(ドライバディスク)が添付されており、そのインストールディスクを使用してセットアップを行う場合は、「ディスク使用」ボタンをクリックします。

インストールディスクの場所を指定する画面が表示されたら、プリンタのマニュアルをご覧になり、インストールディスクの指定を行ってください。

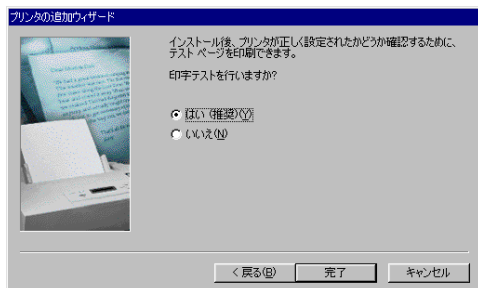
チェック!! インストールディスクにフロッピーディスクを使用する場合は、本機のパラレルコネクタからプリンタケーブルのコネクタを取り外し、添付のフロッピーディスクドライブを取り付けて(→p.24)から行ってください。

7 「次へ」ボタンをクリックすると、プリンタを使用できるポートのリストが表示されるので、LPT1を選ぶ

8 「次へ」ボタンをクリックし、表示された画面の「プリンタ名」欄に使用するプリンタの名前を付ける

この欄には手順6で選択したプリンタの機種名がプリンタ名として表示されるので、特に名前を付け直す必要がなければ、そのままにしておきます。

このプリンタを通常使用するプリンタとして登録する場合は、下欄の「はい」をクリックしてください。

9 「次へ」ボタンをクリックすると、テスト印刷を行うかどうかを選択する画面が表示される

「はい(推奨)」を選択すると、テストページの印刷によってプリンタの接続や設定が正常に行われたかどうか確認することができます。この場合は、あらかじめプリンタのマニュアルに従って用紙などをセットしておいてください。

10 設定が終了したら「完了」ボタンをクリックする

もし、今までの設定を変更したい場合は、「戻る」ボタンをクリックして前の設定画面に戻り、設定をやり直します。

このあと必要なファイルのコピーが行われます。ファイルのコピーがすべて終了すると、設定したプリンタのアイコンが「プリンタ」ウィンドウに表示されます。
「Windowsのディスクを挿入してください」というメッセージが表示された場合は、「C:¥WINDOWS¥OPTIONS¥CABS」を指定してください。

チェック!! **NEC製プリンタのMultiWriterシリーズ、MultiImpactシリーズでPrintAgentをお使いの場合は、スタンバイ機能に対応していないため、以下の手順にしたがってスタンバイ機能が動作しないように設定してください。**

1 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」をクリックして「コントロールパネル」を開き、「電源の管理」アイコンをダブルクリックする

2 「電源の設定」タブの「システムスタンバイ」で「なし」を選択する

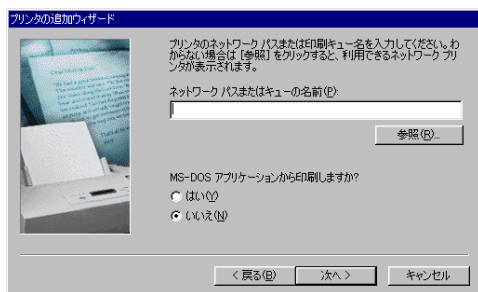
3 「OK」ボタンをクリックする

◎ ネットワーク上の共有プリンタを使うには

ネットワークに接続されているプリンタを使用する場合は、次のように設定します。設定するには、あらかじめプリンタのパスを調べておく必要があります。プリンタのパス名など、ネットワークプリンタについては、ネットワークの管理者にお問い合わせください。

1 **「プリンタを設定する」(→p.76)の手順1〜4を行う**

2 **「ネットワークプリンタ」をクリックして、「次へ」ボタンをクリックする**

次の画面が表示される

3 **ネットワークパス名を入力する**

「参照」ボタンをクリックすると、ネットワークに接続されているプリンタが表示されるので、そこから選ぶこともできます。

4 **「次へ」ボタンをクリックし、あとは画面の指示に従ってプリンタの設定を行う**

外部ディスプレイを使う

本機に別売のCRTディスプレイやプロジェクタを接続することができます。CRTディスプレイの大画面で作業したり、プロジェクタを使ったプレゼンテーションなどが可能になります。

CRTディスプレイを接続する

◎ CRTディスプレイ接続時の解像度と表示色

別売のCRTディスプレイでは、次の解像度と表示色を表示できます。

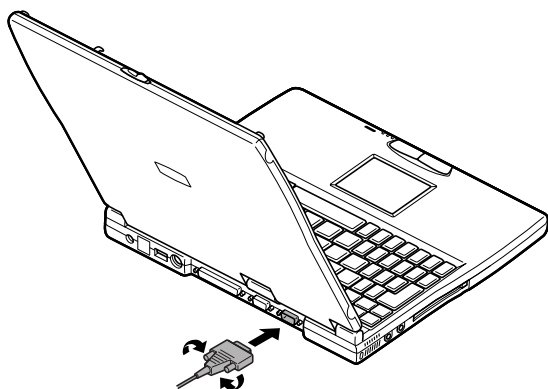
表示解像度（ドット）	水平走査周波数（kHz）	垂直走査周波数（Hz）	表示色		
			256色	65,536色	1,677万色
640×480	31.5	60	○	○	○
	37.9	72	○	○	○
	37.5	75	○	○	○
	43.3	85	○	○	○
800×600	37.9	60	○	○	○
	46.9	75	○	○	○
	53.7	85	○	○	○
1,024×768	35.5	43	○*	○	－
	48.4	60	○	○	－
	56.5	70	○	○	－
	60.0	75	○	○	－
	68.7	85	○	○	－
1,280×1,024	46.9	43	○*	－	－
	64.0	60	○	－	－
1,600×1,200	62.5	48	○*	－	－

○：表示可能
－：表示不可能
＊：インターレース表示

◎ CRTディスプレイを接続する

1 **「スタート」ボタン→「Windowsの終了」で「電源を切れる状態にする」を選択し、「OK」ボタンをクリックして本機の電源を切る**

2 **電源コードのプラグをACコンセントから抜いてから、ACアダプタを本機から取り外す**

3 **ディスプレイ用ケーブルを本機の外部CRT用コネクタに差し込み、ネジを回して固定する**

4 **CRTディスプレイの電源ケーブルを、ディスプレイ背面の電源コネクタに差し込む**

詳しくはCRTディスプレイのマニュアルをご覧ください。

5 **CRTディスプレイの電源ケーブルのプラグをACコンセントに接続する**

CRTディスプレイを接続した場合、本機はACアダプタでお使いください。

プロジェクタを接続する

◎ 液晶プロジェクタと解像度について

別売の液晶プロジェクタを使用する場合は、接続する前に次の表を参考にして表示解像度などを確認してください。

表示解像度（ドット）	走査周波数		プロジェクタモデル		
	水平（kHz）	垂直（Hz）	ViewLightX1020	ViewLight S820/MB800	ViewLight V620
640×480	31.5	60	○	○	○
	37.5	75	○	○	○
800×600	37.9	60	○	○	○*
	46.9	75	○	○*	○*
1,024×768	48.4	60	○	○*	○*
	60.0	75	○	○*	○*
1,280×1,024	64.3	60	○*	―	―

○：表示可能。ただし、ユーザー調整が必要な場合があります。

＊：簡易表示です。なお、表示画素数はViewLight X1020は1,024×768ドット

プロジェクタとの接続について詳しくは、プロジェクタのマニュアルをご覧ください。

外部ディスプレイの設定

◎ 表示ディスプレイの切り替え（ホットキー）

キーボードの【Fn】を押しながら【F5】を押すと、キー操作で簡単に画面の出力先を「外部モニター」→「両方表示」→「液晶ディスプレイ」の順に切り替えることができます。

参照 **ホットキー機能について→「ホットキー機能（【Fn】の使い方）」（p.8）**

◎ ディスプレイに合わせて本機を設定する

別売のCRTディスプレイを使用したとき、表示されたメッセージが適切でなかったり、プラグ&プレイに対応していないディスプレイの場合には、次の操作を行ってください。

1 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」で「コントロールパネル」を開き、「画面」アイコンをダブルクリックする

「画面のプロパティ」が開きます。

2 「設定」タブをクリックし、「詳細」ボタンをクリックする

3 「モニタ」タブをクリックし、「変更」ボタンをクリックする

「デバイスドライバの更新ウィザード」が開きます。

4 「次へ」ボタンをクリックする

5 検索方法で「特定の場所にあるすべてのドライバの一覧を作成し、インストールするドライバを選択する」を選び、「次へ」ボタンをクリックする

6 「すべてのハードウェアを表示」を選択する

7 「デバイスドライバの更新ウィザード」一覧から「製造元」と「モデル」を選択する

一覧に、接続したディスプレイのモデルが表示されない場合は、「製造元」で「(標準のモニタの種類)」を選び、「モデル」では接続したディスプレイに対応した解像度を選んでください。

8 「次へ」ボタンをクリックし、再び「次へ」ボタンをクリックする

9 「完了」ボタンをクリックし、「閉じる」ボタンをクリックする

10 「OK」ボタンをクリックする

これでディスプレイの設定が完了しました。

PCカードを使う

本機ではPC Card Standard準拠のPCカードを使用できます。PCカードを使うことで、本機の機能を拡張したり、さまざまな周辺機器を接続することができます。

PCカード

PCカードとは、社団法人日本電子工業振興協会(JEIDA)とPCMCIAとの間で共同で標準化を進めているカードの名称のことです。PCカードにはさまざまな種類があり、用途も幅広く使われています。メモリカードやモデムカード、SCSIインターフェイス対応機器をつなげるためのSCSIカードなどがあり、ハードディスクとして使われるカードもあります。

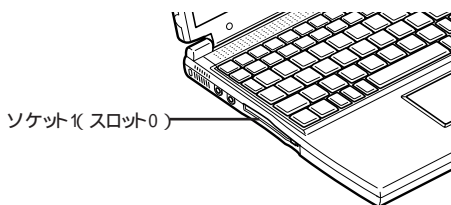
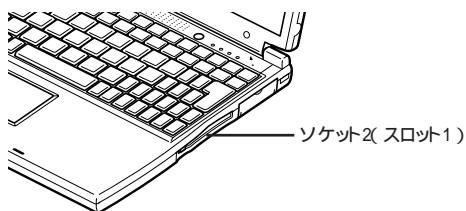
◎ PCカードスロットについて

チェック!! 本機のPCカードスロットでは、TYPE IIのPCカードをスロットに1枚使用できます。

本機のPCカードスロットでは、ZVポート対応およびCardBus対応のPCカードを使用できます(Windows NTでは使用できません)。
ZVポート対応のPCカードは、ソケット1(スロット0)でのみ、使用できます。

◆ 本体左側面

◆ 本体右側面

2 周辺機器を使う

◎ PCカード使用時の注意

・PCカードが2枚挿入されているときは、PCカードを2枚同時に抜かないでください。

・モデムカードやISDNカードなどのCOMポートを使用するPCカードの場合、デバイスマネージャの画面で黄色い「!」マークが付くことがあります。このようなときには、PCカードを挿入したままで本機を起動するか、他のCOMデバイスを「使用不可」に設定してください。黄色い「!」マークが消え、COMポートが使用できるようになることがあります。

・ATAカード上のファイルをアプリケーションから開いている場合は、ATAカード上のファイルを閉じてからスタンバイ状態または休止状態にしてください。

・ATAカードを挿入していると、カードを挿入していないときよりもスタンバイ状態または休止状態になるまでに時間がかかります。

・マルチファンクションカードとATAカードを同時に挿入して使用するときは、右側のスロットにマルチファンクションカードを、左側のスロットにATAカードを挿入してください。

・CardBus対応PCカードのドライバをインストールしているときに、「例外エラー」が発生する場合があります。この場合、本機を再起動すると、正常にインストールを完了することがあります。

・CardBus対応PCカードと通常のPCカード(PCMCIA2.1/JEIDA4.2)を同時に使用するときは、CardBus対応PCカードから先に挿入してください。

・CardBus対応PCカードと通常のPCカード(PCMCIA2.1/JEIDA4.2)を同時に使用しているときに、スリープ/復帰や、Windowsの起動/再起動を行う場合は、いったん、PCカードを抜いておいてください。Windowsの起動が完了してから、再度カードを挿入してください。

・ACPIモードにおいて、本機のPCカードスロットで、CardBus対応のSCSIまたはIDEインターフェイスカードを使用する場合、スリープ状態から正常に復帰できないことがあります。これらのPCカードを使用するときは、スタンバイ状態にする前にPCカードを取り外してから、スタンバイ/復帰を行ってください。

・本機にPCカードを挿入して使用時に不具合が発生した場合は、次のページの手順でUSBの設定を「自動」から「手動」に変更してください。

なお、出荷時は「手動」に設定されていますので、通常は以下の操作は必要ありません。

1 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」をクリックする

2 「システム」アイコンをダブルクリックする

「システムのプロパティ」ウィンドウが表示されます。

> CyberTrio-NXのモード変更を促す画面が表示された場合は、「アドバンストモードに変更」をクリックしてください。その場合は、もう一度手順1、2を行ってください。

3 「デバイスマネージャ」タブをクリックする

4 「ユニバーサル シリアル バスコントローラ」の左にある「+」をクリックする

5 「Intel 82371 AB/EB PCI to USB Universal Host Controller」を選択して、「プロパティ」ボタンをクリックする

「Intel 82371 AB/EB PCI to USB Universal Host Controllerのプロパティ」ウィンドウが表示されます。

6 「リソース」タブをクリックする

7 「自動設定を使う」をクリックして□(オフ)にする

8 「I/Oの範囲」を選択して、「設定の変更」をクリックする

「I/O範囲の編集」ウィンドウが表示されます。

9 「値」を「FCA0-FCBF」に変更する

10 「OK」ボタンをクリックする

11 「OK」ボタンをクリックする

12 「はい」をクリックする

13 「閉じる」をクリックする

14 本機を再起動させる

チェック!! **前ページの操作を行っても不具合が発生する場合は、本機を強制終了させてから再度本機を起動してください。**

◎ PCカードの取り扱いについて

PCカードは精密にできています。PCカードやスロットの故障を防ぐため、次の点に注意してください。

・高温多湿あるいは低温の場所に放置しないでください。

・濡らさないでください。

・重いものを乗せたり、ねじ曲げたりなどしないでください。

・ぶつけたり、落としたりして衝撃を与えないでください。

・PCカードの端子部分に金属などを差し込まないでください。

・本機のPCカードスロットでは、PC Card Standardに準拠していないPCカードは使用できません。対応していないPCカードを無理に押し込むと、故障の原因となります。

PCカードのセットのしかたと取り出し方

⚠注意

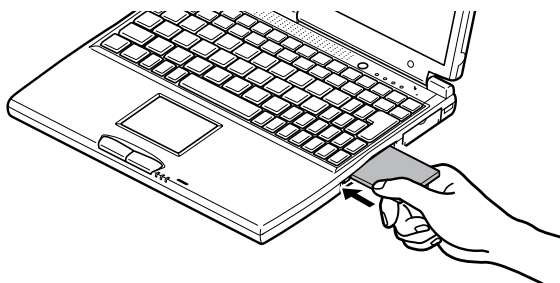
●**本機の使用中や使用直後はPCカードが熱くなっていますので、出し入れにご注意ください。**

・PCカードには表と裏があり、スロットへ差し込む方向も決まっています。まちがった向きで無理やり差し込むと、コネクタやスロットを破損するおそれがあります。

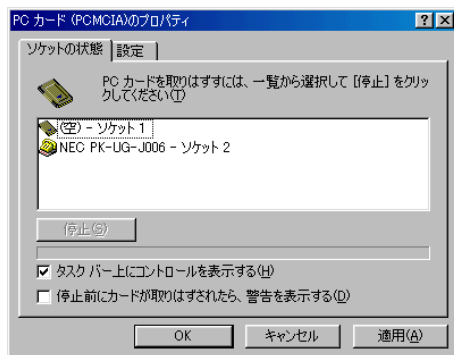
・本機がスリープ状態のときは、PCカードをセットしたり、取り出したりしないでください。本機の機器構成が変更されると、データが消失してしまうことがあります。

・アプリケーションを使用中は、PCカードをセットしたり、取り出したりしないでください。

◎ PCカードのセットのしかた

1 **PCカードの差し込む向きを確認し、ラベル面を上にして、水平に静かに差し込む**

◎ PCカードの取り出し方

1 **タスクバーにあるPCカードのアイコン をダブルクリックする**

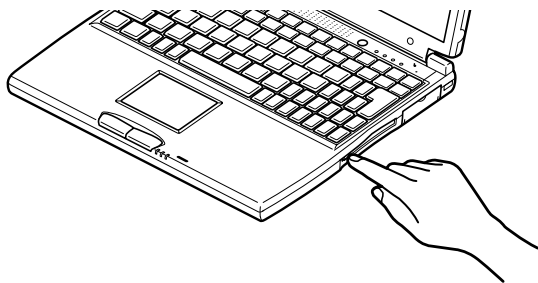
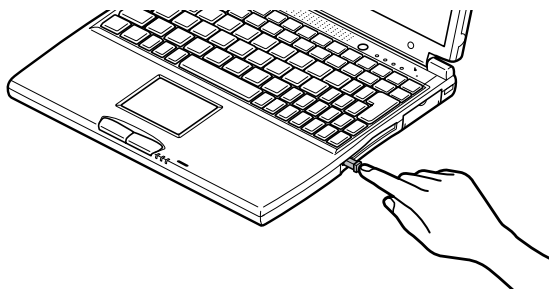
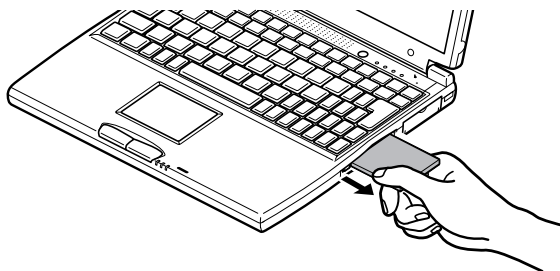
「PCカード(PCMCIA)のプロパティ」ウィンドウが表示されます。

2 **取り外したいPCカードをクリックする**

3 **「停止」ボタンをクリックする**

しばらくすると、「このデバイスは安全に取り外せます」と表示されます。

4 「OK」ボタンをクリックする

5 PCカードイジェクトボタンを押す

PCカードイジェクトボタンが飛び出します。

6 飛び出したPCカードイジェクトボタンをもう一度押す

7 PCカードが少し出てくるので、水平に静かに引き抜く

チェック!! 上記の手順を行わずにPCカードを抜きとった場合は、「予期しないPCカード取りはずし」のウィンドウが表示される場合があります。

PCカードの設定

PCカードを使用するときには、次のような設定が必要な場合があります。

◎ 割り込みレベルの設定

PCカードを2枚以上使用するときに、割り込みレベルの設定が本機の他の設定と重なる場合があります。PCカードのマニュアルと、このマニュアルのPART4の「割り込みレベル・DMAチャネル」(→p.133)をご覧になって、割り込みレベルが重なっていないか確認してください。割り込みが重なる場合は、重ならないように設定を変更してください。

メモリ(RAM)の増設

オプションの増設RAMボードを付加することで、より多くのアプリケーションを同時に立ち上げたり、大きなデータをより高速に扱うことができるようになります。

◎ 本機で使用できる増設RAMボード

本機に使用できる増設RAMボードは次のとおりです。

型名	メモリ容量
PK-UG-M013	64Mバイト
PK-UG-M014	128Mバイト

本機にはメモリスロットが1つあり、最大160Mバイトまでメモリを増設することができます。

チェック!! 本機のメモリスロットには、あらかじめ32MバイトのRAMボードが実装されています。増設の際には、手順にしたがってRAMボードを取り外してから、別売のRAMボードを取り付けてください。

増設RAMボードの取り付け方と取り外し方

⚠注意

● **増設RAMボードの取り付け／取り外しをするときは、本機の電源を切ったあと、電源コードとバッテリパックを取り外してください。電源コードやバッテリパックが取り付けられたまま増設RAMボードの取り付け／取り外しをすると、感電の原因となります。**

チェック!!

- **増設RAMボードは静電気に大変弱く、身体に静電気を帯びた状態で増設RAMボードを扱うと破損する原因となります。増設RAMボードに触れる前に、ドアのノブなど身近な金属に手を触れて、静電気を取り除いてください。**
- **増設RAMボードのコネクタ部分には手を触れないでください。接触不良など、故障の原因となります。**
- **ボード上の部品やハンダ付け面には触れないよう注意してください。**

・増設RAMボードを間違った向きで無理に取り付けようとすると、本機のコネクタ部や増設RAMボードが故障する原因となります。取り付け方向に注意してください。

◎ 増設RAMボードの取り付け方

1 「スタート」ボタン→「Windowsの終了」で「電源を切れる状態にする」を選択し、「OK」ボタンをクリックして本機の電源を切る

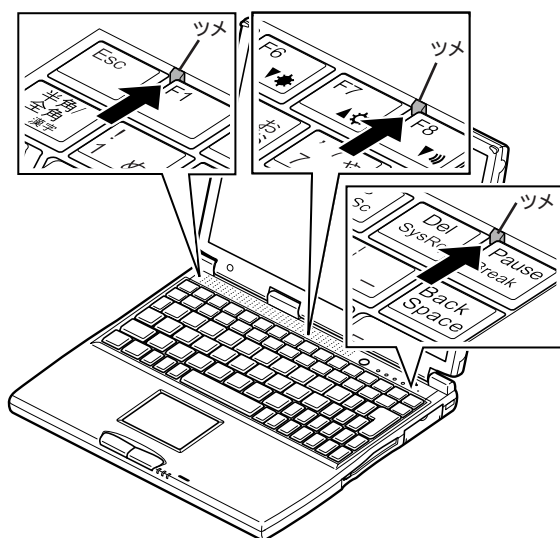
2 電源コードのプラグをACコンセントから抜いてから、ACアダプタを本機から取り外す

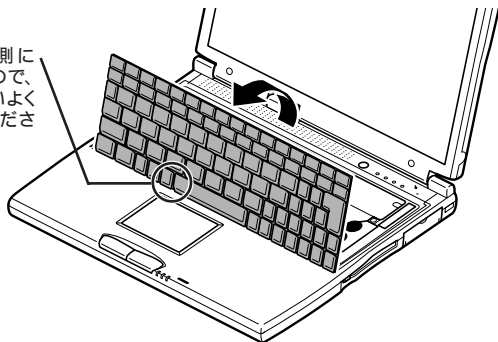
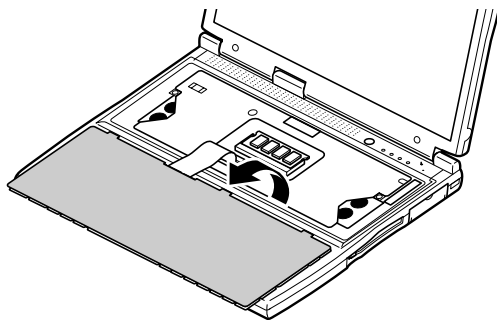
3 液晶ディスプレイを閉じて、本機を裏返す

4 バッテリパックを本機から取り外す(→p.42)

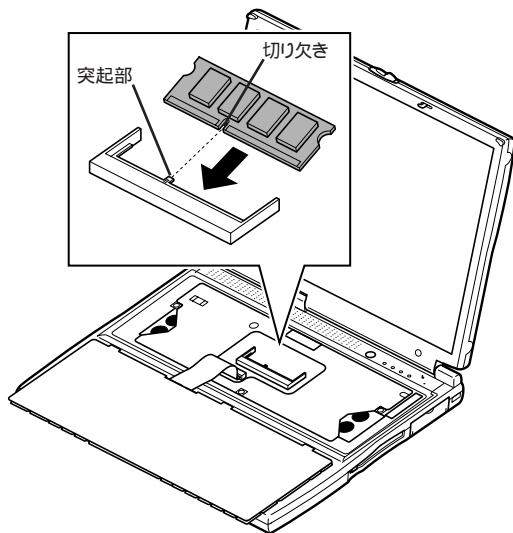
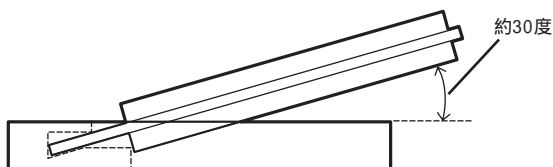
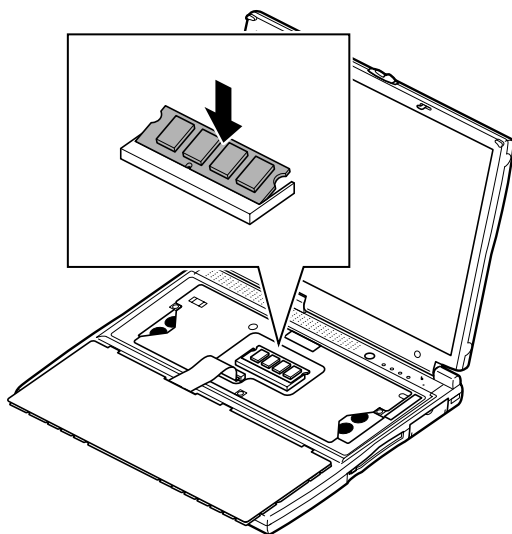
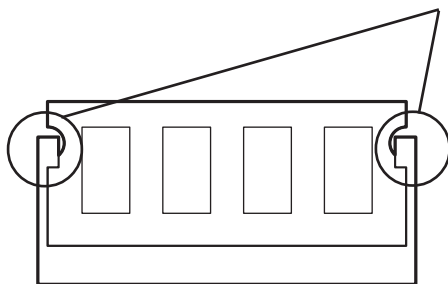
5 本機の天面を上にし、液晶ディスプレイを開く

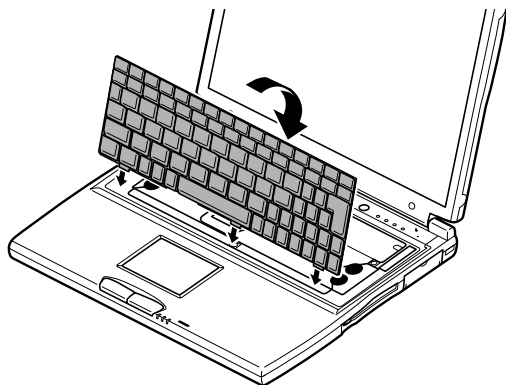
6 図の3カ所のツメをマイナスドライバなどでディスプレイ側に押しながら、キーボード部分を少し持ち上げる

チェック!! キーボードの裏側には、キーボードと本体をつなぐケーブルが接続されています。ケーブルを傷つけないように注意して作業してください。

7 キーボード部分を図のように起こしてから、ゆっくりと裏返す

チェック!! キーボードを勢いよく起こすと、キーボードや本体、ケーブルなどを破損する原因になります。

8 裏返したキーボードを手前に倒す

9 すでに取り付けられているRAMボードを取り外す

「増設RAMボードの取り外し方」(→p.98)の手順2〜3にしたがって取り外してください。

10 **増設RAMボードの切り欠き部分を本機のコネクタの突起部に合わせ、本機コネクタに対して約30度の挿入角度で、増設RAMボードの端子が当たるまで挿入する**

チェック!! 挿入するときに固いことがありますが、奥までしっかり押し込んでください。しっかり押し込まずに次の手順を行うと、コネクタを破損するおそれがあります。

11 **カチッと音がする位置まで増設RAMボードを本機コネクタに強く倒し込む**

チェック!! **増設RAMボードがコネクタにしっかりロックされたことを確認してください。しっかり押し込まずに次の手順を行うと、コネクタを破損するおそれがあります。**

12 手順6で取り外したキーボード部分を、図のように手前側のツメから先に入れ、本機に取り付ける

カチッと音がして、ツメが固定されたことを確認してください。

13 バッテリパックとACアダプタを取り付ける

14 本機の電源を入れる

メモリ増設後は、「増設したメモリ(RAM)の確認」に従って、増設が正しく行われたかどうか確認してください。

◎ 増設したメモリ(RAM)の確認

増設が正常に行われ、メモリが本機に認識されているかどうかを確認します。

1 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」で「コントロールパネル」を開き、「システム」アイコンをダブルクリックする

2 表示された「システムのプロパティ」の「全般」タブで確認する

メモリ容量が増えていない場合は、次のことを確認してください。

・増設RAMボードが正しく取り付けられているか

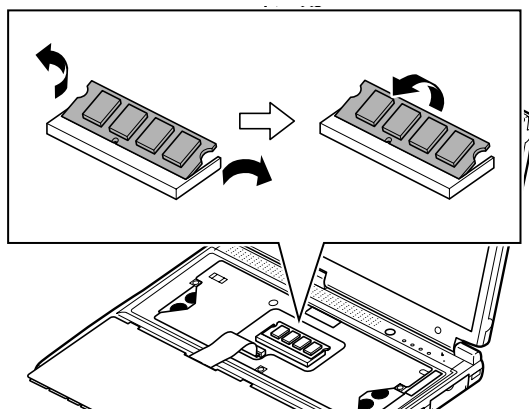
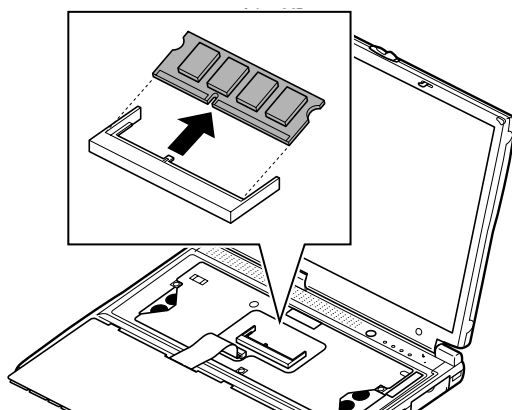
・本機で使用できる増設RAMボードを取り付けているか

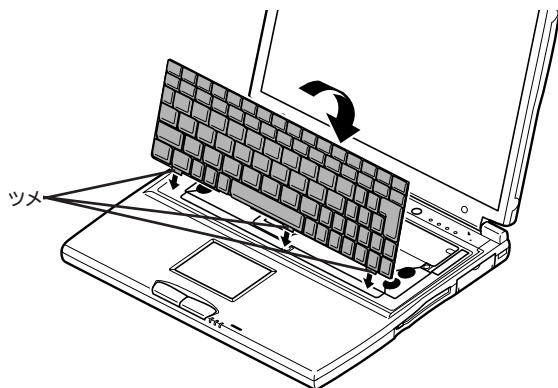
チェック!! システムの状態によっては、増設したメモリ分より少なく表示される場合があります。

◎ 増設RAMボードの取り外し方

1 **「増設RAMボードの取り付け方」の手順1〜6に従って、キーボード部分を開く**

2 **コネクタの両端部分を左右に軽く押し広げる**

増設RAMボードが起き上がります

3 **そのまま増設RAMボードを斜めに引き抜く**

4 取り外したキーボード部分を、図のように手前側のツメから先に入れ、本機に取り付ける

カチッと音がして、ツメが固定されたことを確認してください。

5 バッテリパックを取り付ける

6 本機の電源を入れる

その他の機器を使う

本機では、次のような別売の機器を使用することができます。

種類	機器
オーディオ機器	ヘッドホン、マイクロホンなど
入力装置	マウス、外付けキーボード、テンキーボード、デジタルカメラ、イメージスキャナなど
通信機器	ターミナルアダプタなど

本機のどのコネクタに機器を接続するかは、機器が使用しているインターフェイスによって異なります。また、機器によってインターフェイスが決まっている訳ではありません。詳しくは、各機器のマニュアルをご覧ください。

シリアルコネクタ

シリアル対応機器を接続するためのコネクタです。一般的なコンピュータ用語ではこれをシリアルポートと呼び、WindowsではCOM1やCOM2の名称で呼ばれています。

チェック!! **本機がスタンバイ状態や休止状態のときは、機器の取り付け／取り外しをしないでください。本機の機器構成が変更されると、データが消失してしまうことがあります。**

パラレルコネクタ

別売のプリンタを取り付けるためのコネクタです。
パラレル対応機器であればプリンタ以外の機器も接続することができます。
なお、WindowsではプリンタポートまたはLPT1と呼んでいます。

チェック!! **本機がスリープ状態のときは、機器の取り付け／取り外しをしないでください。本機の機器構成が変更されると、データが消失してしまうことがあります。**

USBコネクタ

USB対応機器を取り付けるためのコネクタです。
USB対応機器は、コネクタの形状が統一されており、127台までの機器を接続することができます。また、電源を切らずにプラグの抜き差しが可能で、プラグ&プレイ機能にも対応しています。

USBとはUniversal Serial Busの略称で、 シリアルポートよりはるかに高速なデータ転送が可能なインターフェイスです。

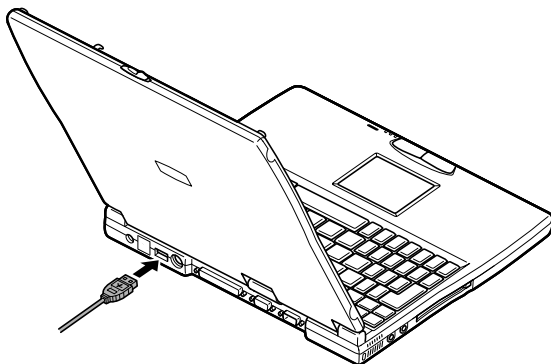
チェック!!

- **コントロールパネルの「システム」アイコンをダブルクリックして表示される「デバイスマネージャ」の画面にある「ユニバーサルシリアルコントローラ」の記述は削除しないでください。**
- **USBコネクタは、すばやく差したり斜めに差したりすると信号が読みとれず、不明なデバイスとして認識されることがありますので、その場合はUSBコネクタを本体から抜いて、もう一度正しく接続し、アプリケーションを再起動してください。**
- **本機がサスペンド状態やハイバネーション状態のときは、機器の取り付け/取り外しをしないでください。本機の機器構成が変更されると、データが消失してしまうことがあります。**

◎ 別売の外付けUSBキーボード(PK-KB010またはPK-KB011)の接続

別売の外付けUSBキーボードは、USBコネクタに取り付けます。 別売の外付けUSBキーボードには、マウス用コネクタが用意されているものもあります。
別売の外付けUSBキーボードをご使用になる際は、添付のマニュアルを参照し、ドライバのセットアップを行ってください。

チェック!! **Windows 98のSafeモードやMS-DOSモードで起動したときは、外付けのキーボードを使うことはできません。**

外付けキーボードの設定は、本機のキーボードと同じように、Windowsで設定することができます。

マウス／テンキーボード用コネクタ

別売のテンキーボード、または別売のマウスを接続するためのコネクタです。

◎ マウス／テンキーボード用コネクタを使用するにあたって

チェック!! マウスまたはテンキーボードを取り付けるときは、必ず本機の電源を切ってから行ってください。

- マウス／テンキーボード用コネクタには、外付けフルキーボードは取り付けることはできません。
- マウスの設定は、ポインティングデバイスと同じようにWindows上で設定することができます(別売のマウスだけを使いたいときは、BIOSセットアップメニューで設定してください)。
- PS/2マウスをお使いの場合は、いったん本機の電源を切ってから、PS/2マウスをマウス／テンキーボード用コネクタに接続し、再度電源を入れ直すと使用可能になります。また、マウスに専用のドライバが添付されている場合は、マウスのマニュアルにしたがって、ドライバの変更を行ってください。

PART

3

システムの設定

セキュリティや省電力など、本機の使用環境の設定について説明します。設定方法をまちがえると正しく動作しなくなってしまうので、十分注意してください。また、必要がある場合以外は設定値を変更しないでください。

このPARTの内容

BIOS セットアップメニュー

本機には、使用環境を設定するためにBIOSセットアップメニューが内蔵されています。
画面上では「AMIBIOS HIFLEX SETUP UTILITY」と表示されます。

BIOSセットアップメニューを使ってできること

次のような設定ができます。

・現在の日付と時間の設定
・ハードウェア環境の確認と変更
・起動デバイスの起動順位の設定
・セキュリティの設定
・省電力の設定

BIOSセットアップメニューを使う

◎ BIOSセットアップメニューの起動とメイン画面

1 電源を入れた直後に表示される「Press＜F2＞to Enter Setup」の画面で【F2】を押す

次のようなメイン画面が表示されます。

```
AMIBIOS HIFLEX SETUP UTILITY - VERSION x.xx
(C)1998 American Megatrends, Inc. All Rights Reserved

BIOS Revision xxxxxxxx

Standard CMOS Setup
Advanced CMOS Setup
Power Management Setup
Peripheral Setup
Auto-Detect Hard Disks
Change User Password
Change Supervisor Password
Auto Configuration with Optimal Settings
Save Settings and Exit
Exit Without Saving

Standard CMOS setup for changing time, date, hard disk type, etc.
ESC:Exit  ↑ ↓:Sel  F3/F4:Color  F10:Save & Exit
```

◎ BIOSセットアップメニューの基本操作

・操作はキーボードで行います。
・【↑】【↓】で設定項目を選択します。
・設定内容のカーソル移動は、【Tab】もしくは【↑】【↓】【←】【→】で行います。
・設定内容の値は【＋】【－】もしくは【F6】【F7】で変更します。
・各設定項目の画面から起動画面に戻すときは、【Esc】を押します。

BIOSセットアップメニューを終了する

◎ 変更を保存して終了する

1 メイン画面で【F10】を押す

確認の画面が表示されます。

2 「Y」になっていることを確認して【Enter】を押す

設定値が保存され、BIOSセットアップメニューが終了します。

また、メニューの「Save Setting and Exit」でもBIOSセットアップメニューを終了することができます。

◎ 変更を保存せずに（起動前の設定のまま）終了する

1 メイン画面で【Esc】を押す

2 【Y】を押し、【Enter】を押す

起動する前の設定のまま（設定の変更を行った場合は、すべて無効にして）BIOSセットアップメニューが終了します。

また、メニューの「Exit Without Saving」でもBIOSセットアップメニューを終了することができます。

工場出荷時の値に戻す

1 メイン画面で「Auto Configuration with Optimal Settings」にカーソルを合わせてから【Enter】を押す

確認の画面が表示されます。

2 【Y】を押してから【Enter】を押す

設定項目一覧

ここでは、BIOSセットアップメニューでどのような設定ができるかを説明しています。

表中の　　　　は、ご購入時の設定です。

◎ Standard CMOS Setup(メインの設定)

◆Date(mm/dd/yyyy)

日付を「月/日/年」で入力します。

◆Time(hh/mm/ss)

現在の時刻を「時/分/秒」(24時間形式)で入力します。

◆Floppy Drive A:

フロッピーディスクドライブのモードを選びます。

設定項目	設定内容	説　明
Floppy Drive A:	1.44MB 3 1/2 Not Installed	「Not Installed」の場合、フロッピーディスクドライブ(FDD)が接続されていても使用することができません。 「1.44MB 3 1/2」の場合、接続されているFDDが使用できます。

◆Pri Master／Pri Slave

現在接続されているIDEデバイスの設定をします。

チェック!! 本設定を変更すると、内蔵ハードディスクが動作しなくなる場合があるので、通常は初期設定のまま使用してください。

設定項目	設定内容	説　　明
Type	Auto 1-46 Not Installed User	「Auto」に設定するとBIOSが自動的にシリンダ、ヘッド、セクタを設定します。「User」に設定するとユーザによる指定ができます。
Size	—	—
Cyln	0-65535	シリンダ数を設定します。※
Head	0-255	ヘッド※
WPcom	0-65535	ヘッド待避シリンダ番号を設定します。※
Sec	0-255	セクタ数を設定します。※
LBA	On Off	LBAモードを使用するかどうかを指定できます。※
Blk	On Off	ブロック転送モードを使用するかどうかを指定できます。※
PIO	Auto 0-4	CPUが直接I/Oポートとアクセスして IDEとのデータのやりとりをするときのデータ転送モードを設定できます。※
32Bit	On Off	32ビットIDEデータ転送を使用するかどうかを指定できます。

※ 「Type」を「User」に設定したときのみ指定可

◆Boot Sector Virus Protection

ハードディスクのブートセクタの設定をします。

設定項目	設定内容	説　明
Boot Sector Virus Protection	Enabled Disabled	ハードディスクのブートセクタにライトプロテクトをかけるかどうかを指定します。

◎ Advanced CMOS Setup(詳細の設定)

◆BootUp Sequence

設定項目	設定内容	説　明
BootUp Sequence	C:,A:,CDROM A:,C:,CDROM CDROM,A:,C:	起動するドライブの順位を設定します。

◆Boot Mode

設定項目	設定内容	説　明
Boot Mode	TEXT GRAPHIC	起動時の表示モードを設定します。

◆S.M.A.R.T. for Hard Disks

設定項目	設定内容	説　明
S.M.A.R.T. for Hard Disks	Auto Disabled	ハードディスクの自己診断機能を設定します。

◆BootUp Num-Lock

設定項目	設定内容	説　明
BootUp Num-Lock	On Off	起動時にNumLockをオンにするかを設定します。

◆Password On Boot

設定項目	設定内容	説　明
Password On Boot	Setup Always	パスワードを設定したときに、どこでパスワードを要求するのかを設定します。

◆PCI IDE BusMaster

設定項目	設定内容	説　明
PCI IDE BusMaster	Enabled Disabled	PCI IDEをバスマスタとして使用するかを設定します。

◆Internal PS/2 Device

設定項目	設定内容	説　明
Internal PS/2 Device	Enabled Disabled	PS/2マウスを使用するかを設定します。

◆Display Expansion Mode

設定項目	設定内容	説　明
Display Expansion Mode	Enabled Disabled	画面の拡張モードを使用するかを設定します。

◆Auto DIM

設定項目	設定内容	説　明
Auto DIM	Enabled Disabled	自動デバイス初期化機能を設定します。

◆Power Switch Selection

設定項目	設定内容	説　明
Power Switch Selection	Suspend Power Off	「Suspend」に設定すると、電源スイッチでスリープにすることができます。

◆LCD Suspend

設定項目	設定内容	説　明
LCD Suspend	On Off	LCDを閉じたときに、サスペンド動作を行うかを設定します。

◎ Power Management Setup(省電力の設定)

◆Power Savings Mode

設定項目	設定内容	説　明
Power Savings Mode	Disabled Maximum Customized	省電力のモードを選びます。

◆CPU Auto Doze Mode

設定項目	設定内容	説　明
CPU Auto Doze Mode	Enabled Disabled	CPUのDoze機能を設定します。

◆Suspend Mode

設定項目	設定内容	説　明
Suspend Mode	Disabled Auto DRAM Disk	サスペンドのモードを設定します。 DRAM:スタンバイ状態 Disk　:休止状態

◆Suspend Timeout

設定項目	設定内容	説　明
Suspend Timeout ※1	Disabled/1/2/3/4/5/10/15/20/30	本機では使用できません。

※1 「コントロールパネル」→「電源の管理」の「システムスタンバイ」で設定できます。

◆RAM to Disk Timeout

設定項目	設定内容	説　明
RAM to Disk Timeout	10/20/30/60	サスペンドからハイバネーションへ移行するまでの時間を設定します。

◆Suspend on Low Battery

設定項目	設定内容	説　明
Suspend on Low Battery	Enabled Disabled	ローバッテリ時にサスペンドするかを設定します。

◆Hard Disk Timeout

設定項目	設定内容	説　明
Hard Disk Timeout※2	Disabled/1/2/3/5/10/15/20	本機では使用できません。

※2 「コントロールパネル」→「電源の管理」の「ハードディスクの電源を切る」で設定できます。

◆Resume Alarm

設定項目	設定内容	説　明
Resume Alarm	Enabled Disabled	指定時刻にレジュームさせる機能を使用するかを設定します。

◆Resume Alarm Time

設定項目	設定内容	説　明
Resume Alarm Time	(N/A)	「Resume Alarm」を「Enabled」に設定すると時刻を設定できます。

◆Battery Refresh

設定項目	設定内容	説　明
Battery Refresh	Enabled Disabled	バッテリ残量の値を正確に合わせるための機能を使用するかを設定します。

◆Battery Low Warning Beep

設定項目	設定内容	説　明
Battery Low Warning Beep	Enabled Disabled	ローバッテリ時にビープ音を鳴らすかを設定します。

◎ Peripheral Setup(周辺機器の設定)

◆COM1 Port

設定項目	設定内容	説　明
COM1 Port	Auto/Disabled/3F8h/2F8h/3E8h/2E8h	シリアルポート(COM1)の設定をします。

◆IR Port(COM2)

設定項目	設定内容	説　明
IR Port(COM2)	Auto/Disabled/3F8h/2F8h/3E8h/2E8h	赤外線通信ポートの設定をします。

◆IR Mode

設定項目	設定内容	説　明
IR Mode	IrDA FIR	赤外線通信ポートのモードをIrDA(SIR)かFIRに切り替えます。

◆IR DMA Channel

設定項目	設定内容	説　明
IR DMA Channel	0/1/3	赤外線通信ポートのDMAチャネルを設定します。

◆LPT Port

設定項目	設定内容	説　明
LPT Port	Auto/Disabled/378h/278h/3BCh	プリンタポートの設定をします。

◆LPT Extended Mode

設定項目	設定内容	説　明
LPT Extended Mode	Normal/Bi-Dir/EPP/ECP	プリンタポートの拡張モードの設定をします。

◆EPP Version

設定項目	設定内容	説　明
EPP Version	1.7/1.9	「LPT Extended Mode」を「EPP」に設定すると指定できます。

◆LPT Port DMA Channel

設定項目	設定内容	説　明
LPT Port DMA Channel	0/1	「LPT Extended Mode」を「ECP」に設定すると指定できます。

◎ Auto-Detect Hard Disks

ハードディスクの自動検出を行います。

◎ Change User Password（ユーザパスワードの設定）

ユーザパスワードの設定を行います。

- **出荷時の状態では、ユーザパスワードは設定されていません。ユーザパスワードの設定や入力のしかたについては、後述の「パスワードの設定と入力」をご覧ください。**
- **パスワードの変更は、スーパバイザパスワードで起動したときのみ行うことができます。**

◎ Change Supervisor Password(スーパバイザパスワードの設定)

スーパバイザパスワードの設定を行います。

チェック!!

- **出荷時の状態では、スーパバイザパスワードは設定されていません。スーパバイザパスワードの設定や入力のしかたについては、後述の「パスワードの設定と入力」をご覧ください。**
- **パスワードの変更は、スーパバイザパスワードで起動したときのみ行うことができます。**

3 システムの設定

パスワードの設定と入力

◎ パスワードを設定/変更する

◆ パスワードに使用できる文字

半角英字	A〜Z(大文字/小文字の区別はありません)
半角数字	0〜9
字数	6文字以内

◆ パスワードの設定/変更の準備

1 BIOSセットアップメニューを起動し、スーパバイザパスワードを変更する場合は「Change Supervisor Password」を、ユーザパスワードを変更する場合は「Change User Password」を選択する

2 【Enter】を押す

スーパバイザパスワードを選択した場合は「Enter new supervisor password:」、ユーザパスワードを選択した場合は「Enter new user password:」と表示されます。

◆ パスワードを設定する

1 **前述の「パスワードの設定／変更の準備」の手順を行う**

2 **パスワードを入力して【Enter】を押す**
入力した文字は＊で表示されます。

3 **もう一度、手順2で入力したパスワードを入力して【Enter】を押す**

4 **いずれかのキーを押す**
これでパスワードが設定できました。

◆ パスワードを変更する

1 **前述の「パスワードの設定／変更の準備」の手順を行う**

2 **古い（変更前の）パスワードを入力して【Enter】を押す**

3 **新しいパスワードを入力して【Enter】を押す**

4 **もう一度、手順3で入力した新しいパスワードを入力して【Enter】を押す**

5 **いずれかのキーを押す**
これでパスワードの変更ができました。

◆ 設定したパスワードを取り消す

1 **前述の「パスワードの設定／変更の準備」の手順を行う**

2 **設定してあるパスワードを入力して【Enter】を押す**
入力した文字は＊で表示されます。

3 **もう一度【Enter】を押す**

4 **いずれかのキーを押す**
これで設定してあるパスワードを取り消すことができました。

PART

4

付録

ここでは、本機の機能に関連した補足情報を記載してあります。

このPARTの内容

本機のお手入れ

ここでは、パソコンのお手入れの方法を説明しています。

◎ 準備するもの

◆汚れが軽いとき

乾いたやわらかい素材のきれいな布

◆汚れがひどいとき

水かぬるま湯を含ませ堅くしぼったきれいな布

> 0A機器用クリーニングキットも汚れを拭き取るのに便利です。
> 0A機器用クリーニングキットについてはご購入元、NECサービスセンター、サービスステーションに問い合わせてください。

参照 NECのお問い合わせ先→『NEC PCあんしんサポートガイド』

◎ パソコンのお手入れをはじめる前に

⚠注意

●お手入れの前には、必ずパソコンやパソコンの周辺機器の電源を切り、電源コードをACコンセントから抜いてください。
電源を切らずにお手入れをはじめると、感電することがあります。

◎ パソコンのお手入れをはじめる

パソコンのお手入れをするときは、次のことに注意してください。

- **水やぬるま湯は、絶対に本機に直接かけないでください。本機の傷みや故障の原因になります。**
- **シンナーやベンジンなどの揮発性の有機溶剤や化学ぞうきんなどは使わないでください。本機の傷みや故障の原因になります。**

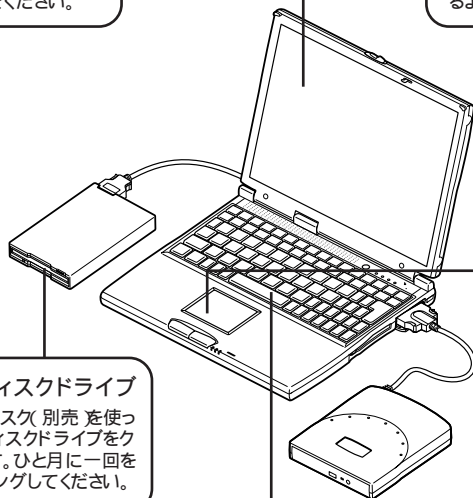
液晶ディスプレイ

乾いたやわらかい素材のきれいな布で拭いてください。
水やぬるま湯、中性洗剤、揮発性の有機溶剤、化学ぞうきんは使わないでください。

電源コード

電源コードのプラグを長期間に渡ってACコンセントに接続したままにしていると、プラグにほこりがたまることがあります。定期的にほこりを拭き取るようにしてください。

NXパッド

乾いたやわらかい素材のきれいな布で拭いてください。
汚れがひどいときは、水かぬるま湯を布に含ませ、堅くしぼったきれいな布で拭きます。

フロッピーディスクドライブ

クリーニングディスク(別売)を使ってフロッピーディスクドライブをクリーニングします。ひと月に一回を目安にクリーニングしてください。

パソコン

乾いたやわらかい素材のきれいな布で拭いてください。
汚れがひどいときは、水かぬるま湯を布に含ませ、堅くしぼったきれいな布で拭きます。

キーボード

乾いたやわらかい素材のきれいな布で拭いてください。
汚れがひどいときは、水かぬるま湯を布に含ませ、堅くしぼったきれいな布で拭きます。
キーのすきまにゴミが入ったときは、専用のクリーナなどでゴミを取ってください。ゴミが取れないときは、ご購入元、NECサービスセンター、サービスステーションに問い合わせてください。
NECのお問い合わせ先:『NEC PCあんしんサポートガイド』

ACPIモードについて

このマニュアルは、本機をAPMモードで使用していることを前提に記載しています。
ここでは、本機をACPIモードで利用する場合の制限事項と、モードを切り替えるための手順を説明しています。

ACPIモード時の制限事項

本機をACPIモードで利用するときには次のような制限事項があります。モードを変更する場合は注意してください。

◆ ホットキー機能(→p.8)

ACPIモードでは、次のホットキー機能は使用できません。

機　能	キー操作	説　明
スリープ	【Fn】+【F4】	スリープ状態にします。
ディスプレイ切り替え	【Fn】+【F5】	別売のCRTディスプレイが接続されているとき、キーを押すごとに、「外部モニター」→「両方表示」→「内蔵液晶ディスプレイ」の順に切り替わります(→p.83)。

◆ バッテリ残量が少ないときの動作(→p.37)

バッテリ残量が少なくなり、新たに電源が供給されない場合、しばらくすると本機の電源が切れます。
なお、バッテリ残量が少ない場合の動作については、Windowsで設定することができます。設定の手順は次のとおりです。

1 **「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」で「コントロールパネル」を開き、「電源の管理」アイコンをダブルクリックする**

2 **「アラーム」タブをクリックする**

3 バッテリ残量が少ないときと、バッテリ残量が残りわずかのとき、それぞれどのような動作をするようにしたいかを設定する

「アラーム動作」ボタンをクリックすると、動作を選ぶことができます。

チェック!! バッテリ低下アラームおよびバッテリ切れアラームの設定値は、8%、3%未満に設定しても、それぞれ8%、3%で動作します。

4 設定が終わったら、「OK」ボタンをクリックする

5 「OK」ボタンをクリックする

◆ 休止状態（→p.47）

ACPIモード時には、休止状態（ハイバネーション）の機能は使えません。

◆ 赤外線通信機能

ACPIモードで本機をご使用の場合は、「赤外線通信を行うまえに」（→p.54）の操作は不要です。

◆ 表示ディスプレイの切り替え（→p.83）

表示の出力先を切り替えたい場合は、次の操作を行ってください。

1 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」で「コントロールパネル」を開き、「画面」アイコンをダブルクリックする

「画面のプロパティ」ウィンドウが表示されます。

2 「設定」タブ→「詳細」ボタン→「表示デバイス」タブをクリックする

3 表示デバイスの項目で選択して表示ディスプレイを切り替える

◆ BIOSセットアップメニューでの設定（→p.104）

BIOSセットアップメニューで設定した「Power Management Setup」の項目が無効になります。

モードを確認する

本機がどちらのモードで動作しているかは、「デバイスマネージャ」で確認できます。モードを切り替える際は、必ず現在のモードを確認してください。

1 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」で「コントロールパネル」を開き、「システム」アイコンをダブルクリックする

「システムのプロパティ」が表示されます。

2 「デバイスマネージャ」タブをクリックする

「デバイスマネージャ」が表示されます。

3 「システムデバイス」をダブルクリックする

「システムデバイス」フォルダの内容が表示されます。
ここに表示されている内容によって、どちらのモードか確認できます。

- **APMモードのとき**

  「アドバンスト パワーマネージメント サポート」

- **ACPIモードのとき**

  「ACPI××××」など

モードの切り替え方

◎ モード切り替えについて

ACPIモードでは、パワーマネジメント管理用に、割り込み(IRQ9)を1つ使用します。
モード切り替えの際に「新しいハードウェアの追加ウィザード」が起動した場合は、画面の指示に従って、"C:¥WINDOWS¥OPTIONS¥CABS"からドライバの組み込みを行ってください。

◎ APMモードからACPIモードへ切り替える

チェック!! **APMモードからACPIモードへの切り替えは、購入時のセットアップ直後か、再セットアップ直後のみ可能です。再セットアップについては、『活用ガイド ソフトウェア編』の「再セットアップするには」をご覧ください。**

1. 切り替え準備

1 **「スタート」ボタン→「プログラム」→「エクスプローラ」をクリックする**

エクスプローラが起動します。

2 **「Modechg」フォルダ→「Acpi_apm」ファイルをダブルクリックする**

「現在、ACPIが無効です。ACPIを有効に設定する場合はOKボタンを押して下さい」と表示されます。

3 **「OK」ボタンをクリックする**

「ACPIを有効にする準備ができました」と表示されます。

4 **「OK」ボタンをクリックする**

2. ハードウェアの再設定

1 **「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」で「コントロールパネル」を開き、「ハードウェアの追加」アイコンをダブルクリックする**

「新しいハードウェアの追加ウィザード」が表示されます。

2 **「次へ」ボタンをクリックする**

3 **もう一度「次へ」ボタンをクリックする**

「インストールするデバイスは一覧にありますか?」というメッセージが表示された場合は、「デバイスは一覧にない」の○をクリックして◉(オン)にしてから「次へ」ボタンをクリックする

4 **「はい」が選択されていることを確認し、「次へ」ボタンをクリックする**

5 「次へ」ボタンをクリックする

デバイスの検索が自動的に行われます。

6 「完了」ボタンをクリックする

7 「はい」ボタンをクリックする

本機が自動的に再起動し、新しいハードウェアの設定が行われます。ここでハードウェアをACPIモードに変更するため、しばらく時間がかかります。

Windows 98 CD-ROMをセットするようにというメッセージが表示された場合は、"C:¥WINDOWS¥OPTIONS¥CABS"を指定して、ドライバの組み込みを行ってください。

8 「今すぐ再起動しますか?」と表示された場合は、「はい」ボタンをクリックする

もう一度、本機が再起動し、モードがACPIモードに切り替わります。

9 「スタート」ボタン→「プログラム」→「エクスプローラ」をクリックする

エクスプローラが起動します。

10 「Modechg」フォルダ→「Apmoff2」ファイルをダブルクリックする

レジストリエディタの画面が表示され、「C:¥MODECHG¥APMOFF2.REGの情報をレジストリに追加しますか?」と表示されます。

11 「はい」ボタンをクリックする

「C:¥MODECHG¥APMOFF2.REGの情報がレジストリに正しく入力されました。」と表示されます。

12 「OK」ボタンをクリックする

3. デバイスの確認

1 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」で「コントロールパネル」を開き、「システム」アイコンをダブルクリックする

「システムのプロパティ」が表示されます。

2 「デバイスマネージャ」タブをクリックし、「システムデバイス」をダブルクリックして「ACPI××××」が存在するかどうか確認する

これで、APMモードからACPIモードへの切り替えが終了しました。

チェック!! はじめてAPMモードからACPIモードに切り替えたときは、次の手順を行ってください。

1 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」で「コントロールパネル」を開き、「電源の管理」アイコンをダブルクリックする

2 「電源の管理のプロパティ」が表示されるので、その中の「詳細」タブをクリックして、「電源ボタン」−「ポータブルコンピュータを閉じたとき」の設定を「スタンバイ」または「シャットダウン」にする

チェック!! 本機は、液晶ディスプレイを閉じたまま動作させると本体内部で発生した熱が放熱されないため、故障の原因になります。そのため、ACPIモードのときは、「電源管理のプロパティ」の「ポータブルコンピュータを閉じたとき」の設定で「何もしない」には設定しないようにしてください。

◎ ACPIモード時の注意事項

ACPIモード時には、次の点に注意してください。

・スタンバイ状態のときにバッテリ残量がなくなると、データが消えてしまいます。バッテリのみで使用している場合には、あらかじめバッテリの残量を確認しておいてください。

・スリープからの復帰(レジューム)動作中に、電源スイッチを押したり、液晶ディスプレイを開閉すると、これらの省電力機能が使えなくなる場合があります。このような場合は、「スタート」ボタン→「Windowsの終了」をクリックし、「スタンバイ」を選んで「OK」ボタンをクリックします。約5秒以上待ってから、電源スイッチを押してスリープから復帰させると、省電力機能が正常に働くようになります。

・MS-DOSプロンプトが一番手前に表示されているときに本機をスリープ状態にすると、画面が正しく復帰されないことがあります。このような場合は、【Alt】を押しながら【Tab】を押してタスクを切り替えると、正しく表示されるようになります。

・本機を電話回線に接続し、液晶ディスプレイを閉じたスタンバイ状態(サスペンド)において、FAXなどの受信があったり、レジューム指示の信号があった場合は、自動的にスタンバイ状態から復帰(レジューム)するようになっています。液晶ディスプレイを閉じたまま放置しておくと、本機が高温になりますので、液晶ディスプレイを開いた状態でご使用になるか、自動スリープ機能(電源管理のシステムスタンバイ)を短時間に設定してお使いください。

・ACPIモードにおいて、本機のPCカードスロットで、CardBus対応のSCSIまたはIDEインターフェイスカードを使用する場合、スリープ状態から正常に復帰できないことがあります。これらのPCカードを使用するときは、スタンバイ状態にする前にPCカードを取り外してから、スタンバイ/復帰を行ってください。

◎ ACPIモードからAPMモードへ切り替える

チェック!! ACPIモードからAPMモードへの切り替えは、本機を再セットアップすることをおすすめします。

参照 再セットアップ→『活用ガイド ソフトウェア編』の「再セットアップするには」

再セットアップを行いたくない場合は次の手順でモードの切り替えが可能ですが、モードの切り替え後にデバイスや周辺機器の再設定が必要になることがあります(→p.104)。

1. 切り替えの準備

1 「スタート」ボタン→「プログラム」→「エクスプローラ」をクリックする

エクスプローラが起動します。

2 「Modechg」フォルダ→「Acpi_apm」ファイルをダブルクリックする

「現在、ACPIが有効です。ACPIを無効に設定する場合はOKボタンを押して下さい」と表示されます。

3 **「OK」ボタンをクリックする**

「ACPIを無効にする準備ができました」と表示されます。

4 **「OK」ボタンをクリックする**

2. ハードウェアの再設定

1 **「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」で「コントロールパネル」を開き、「ハードウェアの追加」アイコンをダブルクリックする**

「新しいハードウェアの追加ウィザード」が表示されます。

2 **「次へ」ボタンをクリックする**

3 **もう一度「次へ」ボタンをクリックする**

4 **「インストールするデバイスは一覧にありますか?」というメッセージが表示された場合は、「デバイスは一覧にない」の○をクリックして◉(オン)にしてから「次へ」ボタンをクリックする**

5 **「はい」が選択されていることを確認し、「次へ」ボタンをクリックする**

6 **「次へ」ボタンをクリックする**

デバイスの検索が自動的に行われます。

7 **「完了」ボタンをクリックする**

8 **「今すぐ再起動しますか?」と表示された場合は、「はい」ボタンをクリックする**

本機が自動的に再起動し、モードがAPMモードに切り替ります。

Windows 98 CD-ROMをセットするようにというメッセージが表示された場合は、C:¥WINDOWS¥OPTIONS¥CABSフォルダを指定して、ドライバの組み込みを行ってください。

4 付録

9 「スタート」ボタン→「プログラム」→「エクスプローラ」をクリックする

エクスプローラが起動します。

10 「Modechg」フォルダ→「Acpioff2」ファイル（アイコン）をダブルクリックする

レジストリエディタの画面が表示され、「C:¥MODECHG¥ACPIOFF2.REGの情報をレジストリに追加しますか?」と表示されます。

11 「はい」ボタンをクリックする

「C:¥MODECHG¥ACPIOFF2.REGの情報が、レジストリに正しく入力されました。」と表示されます。

12 「OK」ボタンをクリックする

13 「スタート」ボタン→「Windowsの終了」をクリックし、「再起動する」を選択して「OK」ボタンをクリックする

本機が再起動します。

3. デバイスの確認

1 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」で「コントロールパネル」を開き、「システム」アイコンをダブルクリックする

「システムのプロパティ」が表示されます。

2 「デバイスマネージャ」タブの「システムデバイス」をダブルクリックし、「アドバンスト パワーマネジメント サポート」が存在するかどうか確認する

これで、ACPIモードからAPMモードへの切り替えが終了しました。

チェック!! **再セットアップを行わずに上記の手順でモードを切り替えた場合、ご使用の環境によって、設定済みの機能や周辺機器の再設定が必要になる場合があります。ACPIモード時に使っていた機能が使えなくなった場合は、「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」で「コントロールパネル」を開き、「システム」アイコンをダブルクリックして「システムのプロパティ」を表示させ、「デバイスマネージャ」で使用できなくなった機能に関するデバイスを一度削除してから、再度設定しなおしてください。**

機能一覧

仕様一覧

項目			仕様
型　番			PC-LB30C72
型　名			LB30C/72
CPU			MMX®テクノロジPentium®
	周波数		300MHz
	内蔵キャッシュメモリ		32Kバイト
セカンドキャッシュメモリ			512Kバイト
メモリ	ROM		256Kバイト(BIOSのみ)
	メインRAM		標準 64Mバイト
		最大	160Mバイト(別売の増設RAMボード(128Mバイト)を1枚増設した場合)※1
	ビデオRAM		2Mバイト
表示機能	表示素子		バックライト付12.1インチTFTカラー液晶ディスプレイ※2
	ウィンドウアクセラレータ		Trident社製Cyber9388標準搭載(ビデオアクセラレーション機能対応)
			640×480ドット(26万色中256色／65536色／1677万色)※3、 800×600ドット(26万色中256色／65536色／1677万色)※3
	別売のCRTディスプレイ接続時		640×480ドット(26万色中256色／65536色／1677万色)、 800×600ドット(26万色中256色／65536色／1677万色)、 1024×768ドット(26万色中256色／65536色)、 1280×1024ドット(26万色中256色)、 1600×1200ドット(26万色中256色)
サウンド機能	サウンドチップ		ESSテクノロジー社製 ES1978S(Maestro2E)搭載
	PCM録音・再生機能		内蔵(ステレオ、量子化8ビット/16ビット、サンプリングレート11.025KHz/22.05KHz/44.1KHz／48KHz)、全二重対応
	MIDI音源機能		内蔵(拡張WAVE Table音源[WAVE Table音源最大64音])
	スピーカ・マイク		モノラルスピーカ・マイクロホン内蔵
	サラウンド		エンハンスド・ステレオ機能、3Dポジショニング機能
入力装置	キーボード		本体との一体型、JIS標準配列(英数・かな)、Fnキー(ホットキー対応)、12ファンクションキー・Windowsキー・アプリケーションキー・Num Lockキー・右Ctrlキー付
	ポインティングデバイス		NXパッド標準装備

補助記憶装置	フロッピーディスクドライブ	外付3.5インチフロッピーディスクドライブ×1(720K/1.2M/1.44Mバイトタイプの3モードに対応)
	固定ディスク(内蔵)	約6.4Gバイト
	CD-ROMドライブ	CAV方式、CD-DA(オーディオCD)CD-ROM MODE1/2、CD-ROM XA MODE2(FORM1/2)、マルチセッション対応 最大24倍速(平均17倍速)、データ転送速度はCD-ROMの最内周で10.3倍速、最外周で24倍速となります
インターフェイス		マウス／テンキーボード(PS/2タイプミニDIN6ピン、テンキーボードと外付けマウスをサポート)、パラレル(D-SUB25ピン)、シリアル(D-SUB9ピン、最高115.2Kbps対応)、ディスプレイ(アナログRGBセパレート信号出力、ミニD-SUB15ピン)、赤外線通信(IrDA規格準拠、データ転送速度4Mbps)、USB
	サウンド関連	ヘッドホン出力／ライン出力共用(ステレオ、ミニジャック)、マイク入力(モノラル、ミニジャック) マイク入力インピーダンス5kΩ　入力レベル5mVrms(バイアス2.5V) ライン出力レベル1Vrms
PCカードスロット		TYPE II ×2スロット PC Card Standard 準拠、CardBus/ZVポート対応※8
パワーマネージメント		自動または任意設定可能
セキュリティ機能		ユーザパスワード機能、スーパバイザパスワード機能、 盗難防止用ロック(市販の盗難防止用ケーブルを使用)
バッテリ駆動時間※4(APMモードの場合)		約1.5〜3.0時間
バッテリ充電時間※4		電源ON時:約6時間 電源OFF時:約2.6時間
バッテリによるスタンバイ状態保持時間※4(バッテリフル充電時)		約3日
電源		リチウムイオンバッテリ(DC10.8V、2,800mAh)※5またはAC100V±10%、50/60Hz(ACアダプタ経由※6)
消費電力		約14W
		内蔵オプション最大接続時　約40W
温湿度条件		5〜35℃、20〜80%※7(ただし、結露しないこと)
外形寸法		268(W)×220(D)×25(H)mm(突起部含まず)
重量※4		約1.7kg

※1 増設RAMボードを増設する場合、本体に標準で実装済みの増設RAMボード(32Mバイト)を取り外す必要があります。
※2 液晶ディスプレイは消耗部品です。
液晶ディスプレイでは、明るさのむらや、微細な斑点が現れることがありますが、故障ではありません。
また、輝度の調整具合、表示モードと表示データの組み合わせによってはムラやちらつき、微細な斑点が現れることがありますが、故障ではありません。
※3 ウィンドウアクセラレータのディザリング機能により実現。
※4 時間および重量は本機のご利用状況やオプションの接続状況により変わる場合があります。
※5 バッテリパックは消耗品です。
※6 ACアダプタ自体は、入力電圧AC240Vまでの安全認定を取得していますが、添付の電源コードはAC125V対応です。
※7 18℃〜28℃、45%〜75%での使用を推奨。
※8 ZVポートはソケット1(スロット0)のみ使用できます。

FAXモデムカード機能仕様

機能概要

CPU I/F	・PC Card StandardおよびJEIDA ver. 4.2/PCMCIA2.1対応 ・16550A相当(I/Oアクセス、割り込み) ・プラグ＆プレイモード
NCU部	・回線接続切り替え機能 ・ダイヤルパルス送出機能 ・リンガ検出機能
モデムチップセット部	・115.2kbpsまでのデータ・モデム・スループット K56flex V.90 V.34 V.32bis V.32、V.22bis、V.22、V.21 V.42LAPMおよびMNP4エラー訂正 V.42bisおよびMNP5データ圧縮 ・最高14.4kbpsのファックス・モデム送受信速度 V.17、V.29、V.27ter、V.21 ch2 ・HayesATコマンドセット準拠 ATコマンド Sレジスタ ・ビルトインDTEインターフェイス 最高115.2kbpsのDTEスピード パラレル16550A UARTインターフェイス ・回線品質モニタリングおよびオートリトレイン ・受信ライン信号品質に基づく自動ライン・スピード選択 ・フロー制御およびスピード・バッファリング ・最高115.2kbpsの自動フォーマット／スピード検出 ・パラレル非同期データ ・自動ダイヤルおよび自動アンサー ・トーンおよびパルスダイヤリング (DTMFトーン、ダイヤルパルス制御)

FAXモデム機能

項目	規格
交信可能ファクシミリ装置	ITU-T G3ファクシミリ装置
適用回線	加入電話回線
同期方式	半二重調歩同期方式
通信速度	14400/12000/9600/7200/4800/2400/300bps※
通信方式	ITU-T V.17/V.29/V.27ter/V.21ch2
変調方式	TCM:14400/12000/9600/7200bps
	QAM:9600/7200/4800bps
	DPSK:4800/2400bps
	FSK:300bps
受信レベル	-10〜-40dBm
制御コマンド	EIA-578拡張ATコマンド(CLASS 1)

※回線状態によって通信速度が変わる場合があります。

データモデム機能

項目		規格
適用回線		加入電話回線
同期方式		全二重調歩同期方式
通信速度	送受信	33600/31200/28800/26400/24000/21600/19200/16800/14400/12000/9600/7200/4800/2400/1200/300bps※1
	受信のみ	56000/54667/54000/53333/52000/50667/50000/49333/48000/46667/46000/45333/44000/42667/42000/41333/40000/38667/38000/37333/36000/34677/34000/33333/32000/30667/29333/28000bps※1
通信規格		K56flex ITU-T V.90/ V.34/V.32bis/V.32/V.22bis/V.22/V.21
変調方式		PCM：56000/54667/54000/53333/52000/50667/50000/49333/48000/46667/46000/45333/44000/42667/42000/41333/40000/38667/38000/37333/36000/34667/34000/33333/32000/30667/29333/28000bps
		TCM：33600/31200/28800/26400/21600/19200/16800/14400/12000/9600/7200/4800/2400bps
		QAM：9600/4800/2400bps
		DPSK：1200bps
		FSK：300bps
エラー訂正		ITU-T V.42（LAPM）
		MNP class4
データ圧縮		ITU-T V.42bis
		MNP class5
受信レベル		-10～-40dBm
制御コマンド		HayesATコマンド準拠※2

※1 回線状態によって、通信速度が変わる場合があります。
※2 ATコマンドについては、以下のファイルを参照
C:¥Windows¥ATCREAD.DOC

NCU機能

項目	規格
適用回線	加入電話回線
ダイヤル形式	パルスダイヤル（10/20pps）
	トーンダイヤル（DTMF）
NCU形式	AA（自動発信/自動着信型）
制御コマンド	HayesATコマンド準拠
	EIA-578拡張ATコマンド（CLASS 1）

その他

項目	仕様
シリアルコントローラ	16550A相当
DTE速度	115200/57600/38400/19200/9600/4800/2400/1200/300bps
路線インターフェイス	600Ω平衡 2Pモジュラープラグ
異速度通信	フロー制御(XON/XOFF、CR/RS制御)により115200bpsまで選択可能
使用電源	DC5Vまたは3.3V(パソコンのPCカードスロットに実装し、パソコンから供給を受ける)
消費電力	1.0W以下
環境条件	温度10～35℃　湿度20～80%RH(結露しないこと)
外形寸法	幅　約54×奥行　約85.6×高さ　約5(mm) PC Card StandardタイプII準拠
重量	約35g(カードのみ)

割り込みレベル・DMAチャネル

パソコンで使用できる周辺機器は、すべて「リソース」というものを使用しています。リソースには、大きく分けて「割り込みレベル（IRQ）」「DMAチャネル」などがあります。

割り込みレベルとDMAチャネルについて

「割り込みレベル（IRQ）」は、複数の機器から同時にCPUにアクセスしたときに、どのような順序で処理していくかを決めるもので、「DMAチャネル」はCPUを経由せずに周辺機器とメモリとのデータのやり取りを制御する機能のことです。これらのリソースは、それぞれの機器ごとに違う設定をしなければなりません。1つのリソースが複数の機器に割り当てられている状態（リソースの競合）では、機器が正常に使用できないばかりか、システム全体の動作も不安定になってしまいます。

◎ 割り込みレベル

IRQ	インターフェイス	IRQ	インターフェイス
0	システムタイマ	8	システムクロック
1	キーボード	9※2	（空き）
2	割り込みコントローラ	10	USBホストコントローラ／グラフィックアクセラレータ
3※1	（空き）	11	（空き）
4	通信ポート	12	NXパッド
5	サウンド	13	数値データプロセッサ
6	フロッピーディスクコントローラ	14	IDEコントローラ（内蔵ハードディスク）
7	パラレルポート	15	CardBusコントローラ（本体）

※1 BIOSセットアップメニューの「Peripheral Setup」の「IR Port(COM2)」を「Disabled」以外に設定すると、IRQ3、4、11のいずれかが割り当てられます。
「Auto」に設定した場合は、IRQ3が割り当てられます。

※2 ACPIモード時はIRQ9は以下のように使われます。
IRQ9……ACPI用システム制御

◎ DMAチャネル

DMA	インターフェイス
#0	パラレルポート（ECPモード）
#1	サウンド
#2	フロッピーディスクコントローラ
#3	赤外線通信*1

*1：赤外線通信機能使用時

索　引

索 引

英字

あ行

か行

さ行

た行

な行

は行

ま行

や行

ら行

わ行

活用ガイド
ハードウェア編

PC98-NX SERIES
LaVie NX
LB30C
(Windows 98 インストール)

初版　1999年5月
NEC
P

このマニュアルはエコマーク認定の再生紙
(古紙率：表紙50%、本文100%)を使用しています。

808-875488-324-A